

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2024年2月5日提出
【計算期間】	第36特定期間(自 2023年5月9日至 2023年11月6日)
【ファンド名】	三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型）
【発行者名】	三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 横川 直
【本店の所在の場所】	東京都港区東新橋一丁目９番１号
【事務連絡者氏名】	伊藤 晃
【連絡場所】	東京都港区東新橋一丁目９番１号
【電話番号】	03-4223-3037
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第１【ファンドの状況】

１【ファンドの性格】

（１）【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、信託財産の成長を目指して運用を行います。

信託金の限度額は、3,000億円です。

※委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託金の限度額を変更することができます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、以下の商品分類および属性区分に該当します。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単位型	国内	株式	MMF	インデックス型
	海外	債券	MR F	
追加型		不動産投信		
	内外	その他資産 ()	E T F	特殊型 ()
		資産複合		

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替 ヘッジ	対象 インデックス	特殊型
株式	年１回	グローバル (日本を含む)	ファミリー ファンド	あり ()	日経２２５	ブル・ベア型
一般	年２回					
大型株	年４回	日本			TOPIX	条件付運用型
中小型株	年６回	北米	ファンド・	なし		
債券	年１２回 (隔月)	欧州	オブ・		その他 ()	ロング・
一般	年１２回 (毎月)	アジア	ファンズ			ショート型／
公債	日々	オセアニア				絶対収益
社債	その他 ()	中南米				追求型
その他債券		アフリカ				その他 ()
クレジット		中近東 (中東)				
属性 ()		エマージング				
不動産投信						
その他資産 (投資信託証券 (資産複合(株 式、債券、不動 産投信)))						
資産複合 ()						

※当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）でご覧いただけます。

※ファミリーファンド、ファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資収益の源

泉となる資産に投資しますので商品分類表と属性区分表の投資対象資産は異なります。

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円で為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいいます。
	追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MR F及びMMFの運営に関する規則」に規定するMMFをいいます。
	MR F（マネー・リザーブ・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MR F及びMMFの運営に関する規則」に規定するMR Fをいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号および第2号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	特殊型	信託約款において、投資家（受益者）に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

※上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

属性区分の定義

投資対象資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		大型株	信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
		中小型株	信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
	債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。

		公債	信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		社債	信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		その他債券	信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		クレジット属性	目論見書または信託約款において、信用力が高い債券に選別して投資する、あるいは投資適格債（BBB格相当以上）を投資対象の範囲とする旨の記載があるものについて高格付債、ハイイールド債等（BBB格相当以下）を主要投資対象とする旨の記載があるものについて低格付債を債券の属性として併記します。
	不動産投信		信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他資産		信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。
	資産複合		信託約款において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。
	決算頻度	年1回	信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年2回	信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年4回	信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年6回（隔月）	信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年12回（毎月）	信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
		日々	信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。
		その他	上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。
投資対象地域	グローバル		信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本		信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米		信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州		信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア		信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	オセアニア		信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米		信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アフリカ		信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中近東（中東）		信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング		信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産（一部組み入れている場合等を除きます。）を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

投資形態	ファミリーファンド	信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。
	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	あり	信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
	なし	信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対象インデックス	日経225	信託約款において、日経225に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	TOPIX	信託約款において、TOPIXに連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記以外の指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型／絶対収益追求型	信託約款において、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

※上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

[ファンドの目的・特色]

ファンドの目的

世界主要国の公社債、わが国の株式、およびわが国の不動産投資信託証券を実質的な主要投資対象とし、分散投資を行うことにより、値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色

特色1

世界主要国の公社債、わが国の株式、およびわが国の不動産投資信託証券への分散投資を行い、信託財産の成長をめざして運用を行います。

- 運用は主に各マザーファンドへの投資を通じて、各資産へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。



特色2

各マザーファンドへの資金配分は、信託財産の純資産総額に対して以下の比率を基本投資割合とします。

＜ファンドの基本投資割合＞



- 実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。



毎月5日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とし、分配を行います。

- 分配対象額は、経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます)等の全額とします。
- 分配金額につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定しますが、原則として配当等収益等により安定した分配をめざします。
- 毎年3・6・9・12月の決算時に売買益(評価益を含みます)がある場合には、配当等収益に売買益(評価益を含みます)等を加えた額から分配を行うことがあります。
- 分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。また、基準価額水準、運用状況等によっては安定した分配とならないことがあります。

□ 配当等収益等は、経費等控除後の配当等収益のほか、収益調整金および分配準備積立金の一部を含みます。

❗ 組入銘柄の一定部分または大部分において減配などの事象が発生し、好配当日本株マザーファンドの配当等収益が低下した場合や株式売買損が発生した場合には、分配金が少額となることや分配が行えないことがあります。

<分配のイメージ図>



- ◆ 「ボーナス分配」とは、特定月の決算時に売買益等がある場合に、毎月の配当等収益等から行う安定分配に上乗せして行う分配です。なお、売買益等がある場合でもボーナス分配を行わない場合があります。
- ❗ 上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- ◆分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



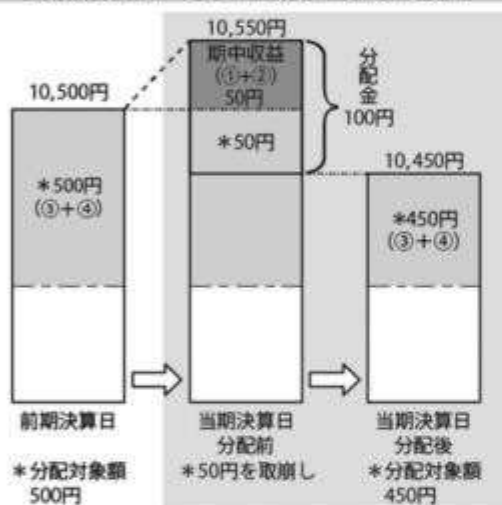
- ◆分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

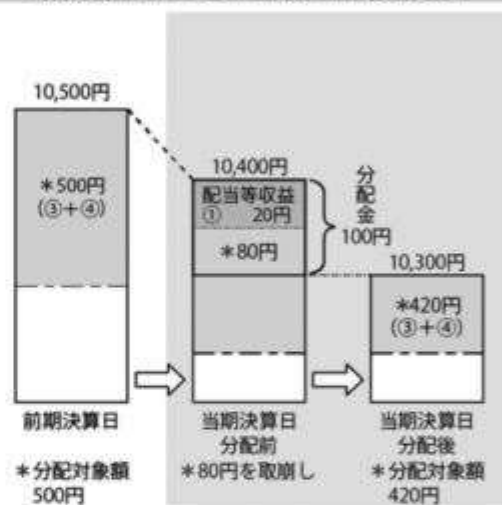
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



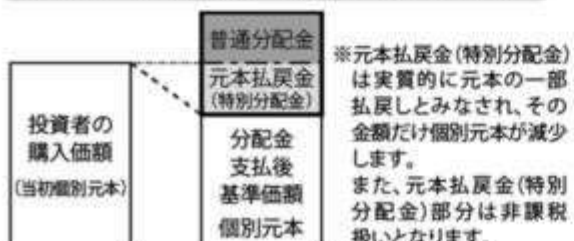
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金：当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

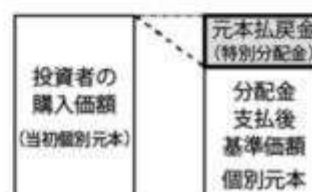
収益調整金：追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

- ◆投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本 (投資者のファンドの購入価額) を上回る部分からの分配金です。

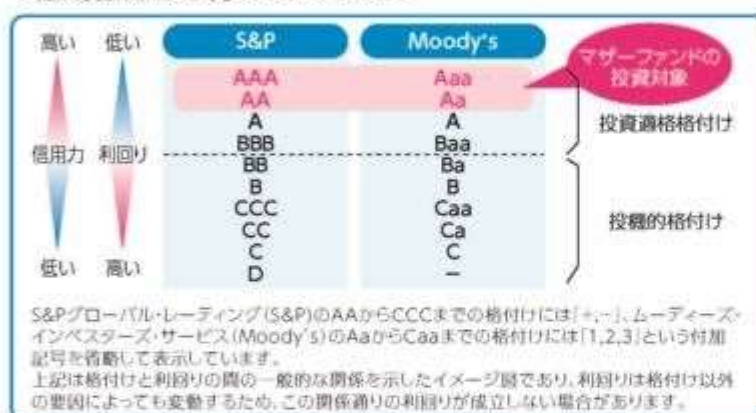
元本払戻金 (特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金 (特別分配金) の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、「4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご参照ください。

高金利高格付債券マザーファンドの特色

- ・ 世界主要国の公社債を主要投資対象とします。
- ・ 世界主要国のうち、信用力が高く、かつ、相対的に金利が高い国の公社債に投資することにより、利子収益の獲得をめざします。
- ・ 投資対象候補国は、OECD（経済協力開発機構）加盟国の中から、国債の信用力がダブルAマイナス格相当（自国通貨建て長期格付け）以上である国とします。
- ・ 投資対象候補国を「アメリカ大陸」、「ヨーロッパ」、「アジア・オセアニア（日本を含む）」の3地域に分け、各地域から相対的に金利が高い国を原則として複数選定します。国別資産配分は、各国の信用力、金利水準および債券市場の規模等を勘案して決定します。
- ・ 各国の国債を中心に、政府保証債、州政府債を含む地方債および各国通貨建ての国際機関債に投資します。
- ・ 組入公社債の格付けは、ダブルAマイナス格相当を下限とします。
- ・ 組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。
- ・ 公社債の組入比率は高位を基本とします。

<信用格付けと利回りについて>



□ 格付けとは

債券の中長期的な元本・利子の支払いの確実性の度合いについてランク付けしたものです。これは、アルファベットを使った簡単な記号で表現されており、世界各国、産業別の債券について比較しやすいため、広く利用されています。

<ポートフォリオ構築のプロセス>



「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。
(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)

好配当日本株マザーファンドの特色

- ・わが国の株式を主要投資対象とします。
- ・主としてTOPIX構成銘柄の中から、予想配当利回りが市場平均と比較して高いと判断される銘柄に投資し、高水準の配当収入と中長期的な株価値上がり益の獲得をめざして運用を行います。なお、TOPIX構成銘柄以外の上場株式等に投資する場合があります。
- ・銘柄選定にあたっては、予想配当利回りが原則として市場平均以上の銘柄から流動性等を勘案して調査対象銘柄を選定し、その中から財務の健全性や配当の実現性等を勘案して組入候補銘柄を決定します。
- ・ポートフォリオの構築にあたっては、銘柄分散を意識し、適宜組入銘柄の入替を行います。
- ・原則として株式の組入比率は高位を維持します。

<組入銘柄選定のプロセスについて>



❑ PBR(株価純資産倍率)とは、Price Book-value Ratioの略で、株価を1株当たり純資産で割って求められる指標です。この数値が低いほど企業の資産価値と比較して株価は割安だと評価されます。

❑ PER(株価収益率)とは、Price Earnings Ratioの略で、株価を1株当たり利益で割って求められる指標です。この数値が低いほど収益性と比較して株価は割安だと評価されます。

❗ 上記は銘柄選定の視点を示したものであり、実際にファンドで投資する銘柄が常に上記の条件を満たすわけではありません。また、こうした企業が必ず利益成長を達成し、株価が上昇するわけではなく、環境によっては業績が悪化し、株価が下落することがある点にご留意ください。

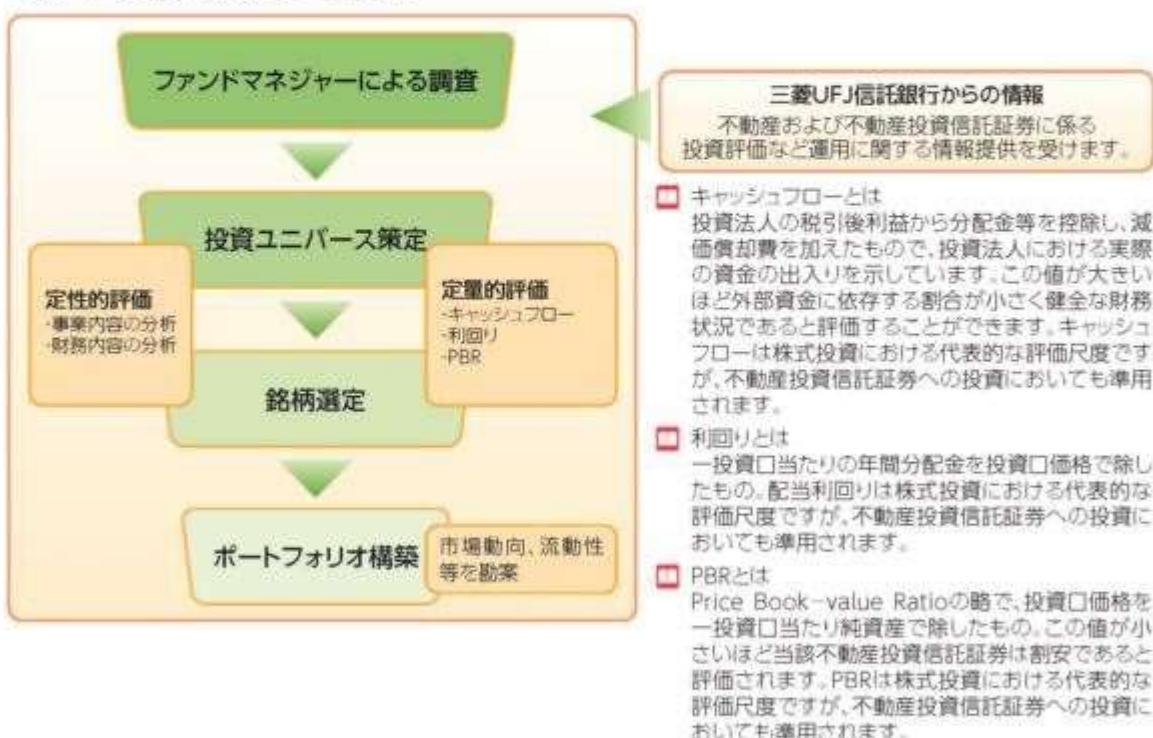
📄 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。
(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)

リートマザーファンド2005の特色

- ・わが国の金融商品取引所に上場している(上場予定を含みます。)不動産投資信託証券を主要投資対象とします。
- ・わが国の金融商品取引所に上場している(上場予定を含みます。)不動産投資信託証券への分散投資を行います。
- ・銘柄選定は、定性的評価・定量的評価を経て行います。定性的評価においては、事業内容および財務内容等の分析を行います。定量的評価においては、キャッシュフロー、利回り、PBR等の分析を行います。
- ・ポートフォリオの構築にあたっては、上記の銘柄評価のほか、わが国の不動産投資信託市場の動向および個別銘柄の流動性等を勘案して行います。
- ・不動産投資信託証券の組入比率は高位を基本とします。

❑ 不動産投資信託証券とは、不動産投資法人の投資証券または不動産投資信託の受益証券をいいます。多数の投資家から資金を集めて不動産を所有、管理、運営し、そこから生じる賃貸料収入や売却益を投資家に分配する商品で、一般的にREIT(リート:Real Estate Investment Trust)と呼ばれています。分配金の原資は主に多数の物件からの賃貸料収入などです。リートはその日本版という意味です。

<ポートフォリオ構築のプロセス>



❗ 上記は銘柄選定の視点を示したものであり、実際にファンドで投資する銘柄が常に上記の条件を満たすわけではありません。

📄 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。
(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)

■主な投資制限

株式	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。
外貨建資産	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(2) 【ファンドの沿革】

2005年12月9日
2015年8月7日

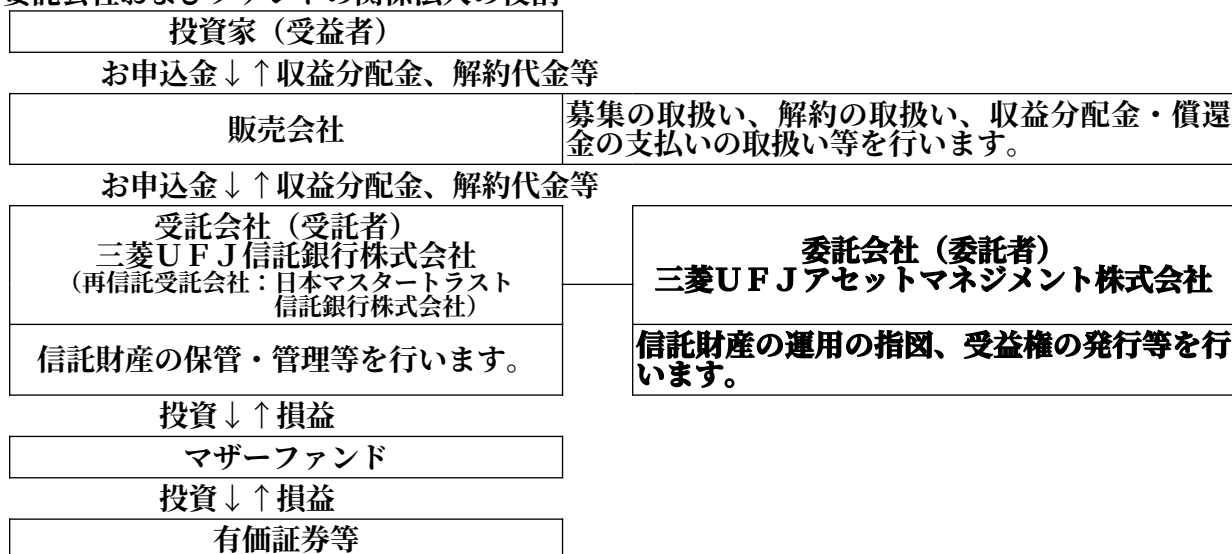
設定日、信託契約締結、運用開始
信託期間を2015年11月5日までから2020年11月5日までに変更

2019年8月7日

信託期間を2020年11月5日までから2025年11月5日までに変更

(3) 【ファンドの仕組み】

①委託会社およびファンドの関係法人の役割



②委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

③委託会社の概況（2023年11月末現在）

- 金融商品取引業者登録番号
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号
- 設立年月日
1985年8月1日
- 資本金
2,000百万円
- 沿革

1997年5月	東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始
2004年10月	東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更
2005年10月	三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更
2015年7月	三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更
2023年10月	エム・ユー投資顧問株式会社の有価証券運用事業を三菱UFJ国際投信株式会社へ統合し、商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更

・大株主の状況

株 主 名	住 所	所有株式数	所有比率
-------	-----	-------	------

三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目４番５号	211,581株	100.0%
---------------	-------------------	----------	--------

２【投資方針】

（１）【投資方針】

高金利高格付債券マザーファンド受益証券、好配当日本株マザーファンド受益証券およびＪリートマザーファンド２００５受益証券を主要投資対象とします。

各マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界主要国の公社債、わが国の株式、およびわが国の不動産投資信託証券への分散投資を行います。

各マザーファンド受益証券への資金配分は、信託財産の純資産総額に対して以下の比率を基本投資割合とします。

高金利高格付債券マザーファンド受益証券・・・・・・・・６０％

好配当日本株マザーファンド受益証券・・・・・・・・・・２０％

Ｊリートマザーファンド２００５受益証券・・・・・・・・２０％

実質組入外貨建資産に対する為替ヘッジは原則として行いません。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（２）【投資対象】

①投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

１．次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．約束手形

ハ．金銭債権

２．次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

②有価証券の指図範囲

この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社を受託会社として締結された高金利高格付債券マザーファンド、好配当日本株マザーファンドおよびＪリートマザーファンド２００５（「マザーファンド」または「親投資信託」といいます。）の各受益証券のほか、次に掲げるものとします。

１．コマーシャル・ペーパー

２．外国または外国の者の発行する証券または証書で、１．の証券または証書の性質を有するもの

３．国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券を除きます。）

４．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第１４号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、３．の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は短期社債等への投資ならびに買い現先取引（売戻条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付債券借入れ）に限り行うことができます。

③金融商品の指図範囲

この信託において投資の対象とする金融商品（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）は、次に掲げるものとします。

１．預金

２．指定金銭信託（金融商品取引法第２条第１項第１４号で定める受益証券発行信託を除きます。）

３．コール・ローン

４．手形割引市場において売買される手形

④その他の投資対象

信託約款に定める次に掲げるもの。

- ・外国為替予約取引

<マザーファンドの概要>

高金利高格付債券マザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

世界主要国の公社債を主要投資対象とします。

②投資態度

世界主要国のうち、信用力が高く、かつ、相対的に金利が高い国の公社債に投資することにより、利子収益の獲得を目指します。

投資対象候補国は、OECD（経済協力開発機構）加盟国の中から、国債の信用力がダブルAマイナス格相当（自国通貨建て長期格付）以上である国とします。

投資対象候補国を「アメリカ大陸」、「ヨーロッパ」、「アジア・オセアニア（日本を含む）」の3地域に分け、各地域から相対的に金利が高い国を原則として複数選定します。国別資産配分は、各国の信用力、金利水準および債券市場の規模等を勘案して決定します。

各国の国債を中心に、政府保証債、州政府債を含む地方債および各国通貨建ての国際機関債に投資します。

組入公社債の格付は、ダブルAマイナス格相当を下限とします。

組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。

公社債の組入比率は高位（通常の状態では信託財産の純資産総額の90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

好配当日本株マザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の成長をめざして運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

わが国の株式を主要投資対象とします。

②投資態度

主としてTOPIX構成銘柄の中から、予想配当利回りが市場平均と比較して高いと判断される銘柄に投資し、高水準の配当収入と中長期的な株価値上がり益の獲得をめざして運用を行います。なお、TOPIX構成銘柄以外の上場株式等に投資する場合があります。

銘柄選定にあたっては、予想配当利回りが原則として市場平均以上の銘柄から流動性等を勘案して調査対象銘柄を選定し、その中から財務の健全性や配当の実現性等を勘案して組入候補銘柄を決定します。

ポートフォリオの構築にあたっては、銘柄分散を意識し、適宜組入銘柄の入替えを行います。

原則として株式の組入比率は高位を維持します。

株式以外の資産への投資割合は、原則として信託財産の総額の50%以下とします。

なお、市場動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

①株式への投資割合に制限を設けません。

②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

③投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

④同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

⑥同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

- ⑦外貨建資産への投資は行いません。
- ⑧有価証券先物取引等は価格変動リスクを回避するため行うことができます。
- ⑨スワップ取引は効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクを回避するため行うことができます。

Ｊリートマザーファンド２００５

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の成長を目指して運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

わが国の金融商品取引所（金融商品取引法第２条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第２条第８項第３号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。）に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券（不動産投資法人の投資証券もしくは新投資口予約権証券または不動産投資信託の受益証券をいいます。以下同じ。）を主要投資対象とします。

②投資態度

わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券への分散投資を行います。

銘柄選定は、定性的評価・定量的評価を経て行います。定性的評価においては、事業内容および財務内容等の分析を行います。定量的評価においては、キャッシュフロー、利回り、ＰＢＲ等の分析を行います。

ポートフォリオの構築にあたっては、②に掲げた銘柄評価の他、わが国の不動産投資信託市場の動向および個別銘柄の流動性等を勘案して行います。

不動産投資信託証券の組入比率は高位（通常の状態では信託財産の純資産総額の90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

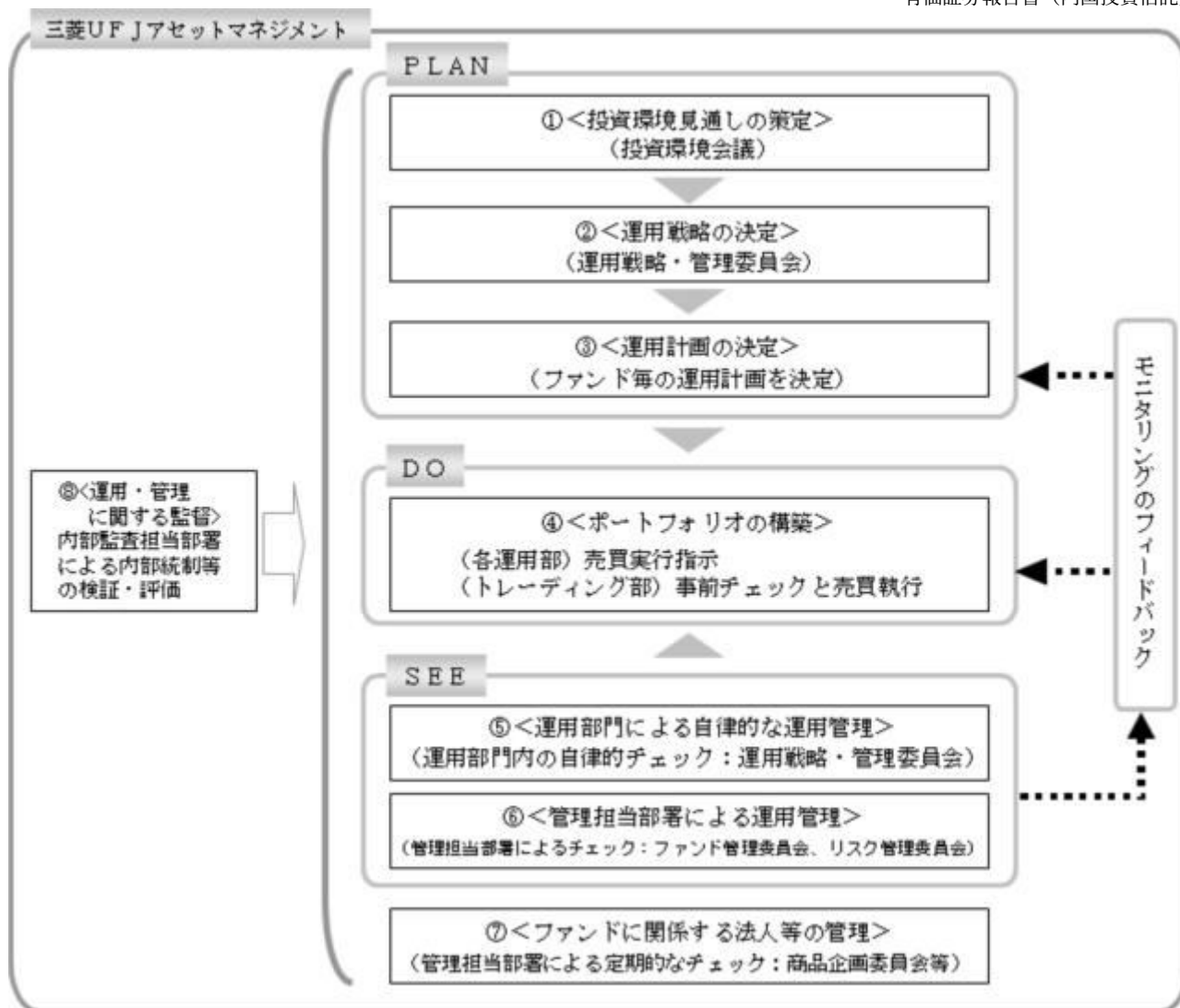
①投資信託証券への投資割合に制限を設けません。

②同一銘柄の投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

③株式への投資は行いません。

④外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）への投資は行いません。

（３）【運用体制】



①投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

②運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、①で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

③運用計画の決定

②で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

④ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

⑤運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

⑥管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署（40～60名程度）は、（a）運用に関するパフォーマンス測定・分析、意図した運用成果が得られていない場合にはその原因の分析のほか、（b）リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、（a）についてはファンド管理委員会における審議を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、（b）についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

⑦ファンドに係る法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に係る法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

⑧運用・管理に関する監督

内部監査担当部署（10名程度）は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

なお、委託会社に関する「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。

「運用担当者に係る事項」 <https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>

（４）【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ①分配対象額は、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ②分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定しますが、原則として配当等収益等により安定した分配を目指します。ただし、毎年３月・６月・９月・１２月の決算時に売買益（評価益を含みます。）がある場合には、配当等収益に売買益（評価益を含みます。）等を加えた額から分配を行うことがあります。なお、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。
- ③収益の分配にあてなかった利益については、信託約款に定める運用の基本方針に基づき運用を行います。

（５）【投資制限】

<信託約款に定められた投資制限>

①株式

- a. 委託会社は、親投資信託の信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額が、信託財産の純資産総額の100分の50を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

②投資信託証券

投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。）への投資は行いません。

③信用取引

信用取引の指図は行いません。

④外国為替予約取引

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産と親投資信託の信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

⑤公社債の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b. a. の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、b. の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

⑥資金の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

⑦特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

⑧デリバティブ取引等

デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいう。）については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないこととします。

⑨信用リスクの分散規制

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

<その他法令等に定められた投資制限>

- ・ 同一の法人の発行する株式への投資制限

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

（1）投資リスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

（主なリスクであり、以下に限定されるものではありません。）

①価格変動リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動し、また、不動産投資信託証券の価格は保有不動産等の価値やそこから得られる収益の増減等により変動するため、当ファンドはその影響を受け株式や公社債、不動産投資信託証券の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

保有不動産等の価値は、不動産市況、社会情勢等のマクロ的な要因の他、不動産の質や収益増減等の個別の要因によって変動しますが、災害等による保有不動産の滅失、劣化または毀損が

あった場合には、その影響を大きく受けることがあります。なお、保有不動産等から得られる収益は、賃料水準、稼働率、借入金利等の要因により変動します。

また、不動産投資信託証券は、株式と同様に上場市場で取引が行われ市場の需給を受けて価格が決定しますが、利回りに着目して取引される傾向もあるため、公社債と同様に、金利の影響を受けることがあります。よって、金利の上昇局面では、不動産投資信託証券に対する投資価値が相対的に低下し、不動産投資信託証券の市場価格が下落する場合があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

②為替変動リスク

実質的な主要投資対象である海外の公社債は外貨建資産であり、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

③信用リスク

信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

④流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式や公社債、不動産投資信託証券の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、不動産投資信託証券は、株式と比べ市場規模が小さく、また、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。

※留意事項

- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。
- ・不動産投資信託証券および不動産投資信託証券が保有する不動産に係る法律、税制、会計などの制度変更が、不動産投資信託証券の価格や配当率に影響を及ぼすことがあります。不動産投資信託証券の投資口数が増加する場合、1口当たりの不動産投資信託証券の収益性が低下することがあります。

（２）投資リスクに対する管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

具体的な、投資リスクに対するリスク管理体制は以下の通りです。

①コンプライアンス担当部署

法令上の禁止行為、約款の投資制限等のモニタリングを通じ、法令等遵守のための管理態勢の状況を把握・管理し、必要に応じて改善の指導を行います。

②リスク管理担当部署

運用リスク全般の状況をモニタリング・管理するとともに、運用実績の分析および評価を行い、必要に応じて改善策等を提言します。また、事務・情報資産・その他のリスクの統括的管理を行っています。

③内部監査担当部署

委託会社のすべての業務から独立した立場より、リスク管理体制の適切性および有効性について評価を行い、改善策の提案等を通して、リスク管理機能の維持・向上をはかります。

＊組織変更等により、前記の名称および内容は変更となる場合があります。

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広くに網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込価額(発行価格)×2.75%(税抜 2.5%)を上限として販売会社が定める手数料率
申込手数料は販売会社にご確認ください。

申込みには分配金受取コース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があり、分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

※申込手数料の対価として提供する役務の内容は、ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等です。

（２）【換金（解約）手数料】

かかりません。

※換金（解約）手数料の対価として提供する役務の内容は、商品の換金に関する事務手続等です。

（３）【信託報酬等】

- ・信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年1.21%（税抜1.1%）の率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額×信託報酬率×（保有日数／365）

※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- ・信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

- ・信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

支払先	配分（税抜）	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.54%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.5%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.06%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

※上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

ファンドは実質的に上場投資信託（リート）を投資対象としており、上場投資信託は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託の費用は表示しておりません。

（４）【その他の手数料等】

- ・信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入を行う場合の借入金の利息および借入れに関する品借料は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。
- ・信託財産に係る監査費用（消費税等相当額を含みます。）は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に一定率を乗じて得た額とし、信託財産中から支弁します。支弁時期は信託報酬と同様です。
- ・信託財産（投資している投資信託を含みます。）の組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等（消費税等相当額を含みます。）、先物取引・オプション取引等に要する費用および外貨建資産の保管等に要する費用についても信託財産が負担するものとします。

※売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

（注）手数料等については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用（手数料等）の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

①個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

１．収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除は適用されません。）・申告分離課税を選択することもできます。

2. 解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に「NISA（少額投資非課税制度）」の適用対象となります。ファンドは、NISAの対象ではありません。

②法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

※分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

◇個別元本について

①受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

②受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

③受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

◇収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、①当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、②当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

※上記は2023年11月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

【三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型）】

（１）【投資状況】

2023年11月30日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	3,505,675,266	99.81
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	6,769,666	0.19
純資産総額		3,512,444,932	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

2023年11月30日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (％)
日本	親投資信託受益証券	高金利高格付債券マザーファンド	1,149,083,656	1.8035	2,072,372,374	1.8425	2,117,186,636	60.28
日本	親投資信託受益証券	好配当日本株マザーファンド	246,840,775	2.8257	697,497,978	2.8307	698,732,181	19.89
日本	親投資信託受益証券	Jリートマザーファンド 2005	230,718,641	2.9638	683,803,908	2.9896	689,756,449	19.64

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2023年11月30日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.81
合計	99.81

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

下記計算期間末日および2023年11月末日、同日前 1 年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第94計算期間末日 (2013年12月 5日)	10,090,724,585	10,108,799,328	8,374	8,389

第95計算期間末日	(2014年 1月 6日)	9,841,511,200	9,858,611,969	8,633	8,648
第96計算期間末日	(2014年 2月 5日)	9,312,012,842	9,328,878,316	8,282	8,297
第97計算期間末日	(2014年 3月 5日)	9,448,362,483	9,465,040,941	8,498	8,513
第98計算期間末日	(2014年 4月 7日)	9,376,120,990	9,392,504,322	8,584	8,599
第99計算期間末日	(2014年 5月 7日)	9,269,483,756	9,285,722,408	8,562	8,577
第100計算期間末日	(2014年 6月 5日)	9,307,131,578	9,323,175,710	8,701	8,716
第101計算期間末日	(2014年 7月 7日)	9,317,783,029	9,333,574,259	8,851	8,866
第102計算期間末日	(2014年 8月 5日)	9,212,498,170	9,228,096,914	8,859	8,874
第103計算期間末日	(2014年 9月 5日)	9,154,830,017	9,170,052,627	9,021	9,036
第104計算期間末日	(2014年10月 6日)	8,974,539,165	8,989,398,316	9,060	9,075
第105計算期間末日	(2014年11月 5日)	9,202,280,635	9,216,956,568	9,405	9,420
第106計算期間末日	(2014年12月 5日)	9,350,750,417	9,364,897,021	9,915	9,930
第107計算期間末日	(2015年 1月 5日)	9,165,023,752	9,178,981,341	9,850	9,865
第108計算期間末日	(2015年 2月 5日)	8,850,795,203	8,864,586,912	9,626	9,641
第109計算期間末日	(2015年 3月 5日)	8,933,090,938	8,946,679,754	9,861	9,876
第110計算期間末日	(2015年 4月 6日)	8,694,056,402	8,707,273,624	9,867	9,882
第111計算期間末日	(2015年 5月 7日)	8,527,994,301	8,540,924,969	9,893	9,908
第112計算期間末日	(2015年 6月 5日)	8,469,733,711	8,482,324,966	10,090	10,105
第113計算期間末日	(2015年 7月 6日)	8,076,596,591	8,089,015,420	9,755	9,770
第114計算期間末日	(2015年 8月 5日)	8,103,507,676	8,115,784,719	9,901	9,916
第115計算期間末日	(2015年 9月 7日)	7,274,659,128	7,286,741,291	9,031	9,046
第116計算期間末日	(2015年10月 5日)	7,379,106,741	7,390,981,667	9,321	9,336
第117計算期間末日	(2015年11月 5日)	7,246,543,580	7,257,987,998	9,498	9,513
第118計算期間末日	(2015年12月 7日)	7,175,939,910	7,187,094,680	9,650	9,665
第119計算期間末日	(2016年 1月 5日)	6,822,418,020	6,833,439,434	9,285	9,300
第120計算期間末日	(2016年 2月 5日)	6,714,702,348	6,725,607,923	9,236	9,251
第121計算期間末日	(2016年 3月 7日)	6,556,664,118	6,567,365,040	9,191	9,206
第122計算期間末日	(2016年 4月 5日)	6,344,839,764	6,355,328,228	9,074	9,089
第123計算期間末日	(2016年 5月 6日)	6,185,622,059	6,196,022,399	8,921	8,936
第124計算期間末日	(2016年 6月 6日)	6,129,303,727	6,139,630,453	8,903	8,918
第125計算期間末日	(2016年 7月 5日)	5,837,797,434	5,847,991,662	8,590	8,605
第126計算期間末日	(2016年 8月 5日)	5,728,881,904	5,738,981,408	8,509	8,524
第127計算期間末日	(2016年 9月 5日)	5,818,610,633	5,828,593,528	8,743	8,758
第128計算期間末日	(2016年10月 5日)	5,655,354,687	5,665,230,726	8,590	8,605
第129計算期間末日	(2016年11月 7日)	5,525,829,269	5,535,511,319	8,561	8,576
第130計算期間末日	(2016年12月 5日)	5,735,798,730	5,745,370,303	8,989	9,004
第131計算期間末日	(2017年 1月 5日)	5,773,900,753	5,783,271,957	9,242	9,257
第132計算期間末日	(2017年 2月 6日)	5,584,936,051	5,594,150,423	9,092	9,107
第133計算期間末日	(2017年 3月 6日)	5,533,321,394	5,542,441,905	9,100	9,115
第134計算期間末日	(2017年 4月 5日)	5,303,913,775	5,312,881,346	8,872	8,887
第135計算期間末日	(2017年 5月 8日)	5,320,630,626	5,329,480,805	9,018	9,033
第136計算期間末日	(2017年 6月 5日)	5,237,113,651	5,245,820,632	9,022	9,037

第137計算期間末日	(2017年 7月 5日)	5,248,256,756	5,256,880,703	9,129	9,144
第138計算期間末日	(2017年 8月 7日)	5,202,396,222	5,210,896,403	9,181	9,196
第139計算期間末日	(2017年 9月 5日)	5,058,475,833	5,066,852,025	9,059	9,074
第140計算期間末日	(2017年10月 5日)	5,088,835,326	5,097,101,769	9,234	9,249
第141計算期間末日	(2017年11月 6日)	5,011,416,011	5,019,487,454	9,313	9,328
第142計算期間末日	(2017年12月 5日)	4,918,569,830	4,926,513,795	9,287	9,302
第143計算期間末日	(2018年 1月 5日)	4,985,605,272	4,993,442,595	9,542	9,557
第144計算期間末日	(2018年 2月 5日)	4,908,447,528	4,916,257,347	9,427	9,442
第145計算期間末日	(2018年 3月 5日)	4,624,478,512	4,632,249,811	8,926	8,941
第146計算期間末日	(2018年 4月 5日)	4,669,863,221	4,677,566,730	9,093	9,108
第147計算期間末日	(2018年 5月 7日)	4,671,220,716	4,678,886,177	9,141	9,156
第148計算期間末日	(2018年 6月 5日)	4,640,782,296	4,648,347,624	9,201	9,216
第149計算期間末日	(2018年 7月 5日)	4,527,280,437	4,534,776,925	9,059	9,074
第150計算期間末日	(2018年 8月 6日)	4,548,094,146	4,555,566,303	9,130	9,145
第151計算期間末日	(2018年 9月 5日)	4,478,124,721	4,485,553,887	9,042	9,057
第152計算期間末日	(2018年10月 5日)	4,530,709,940	4,538,092,801	9,205	9,220
第153計算期間末日	(2018年11月 5日)	4,430,626,422	4,437,988,701	9,027	9,042
第154計算期間末日	(2018年12月 5日)	4,426,482,762	4,433,786,273	9,091	9,106
第155計算期間末日	(2019年 1月 7日)	4,239,881,484	4,247,167,608	8,729	8,744
第156計算期間末日	(2019年 2月 5日)	4,355,631,167	4,362,881,638	9,011	9,026
第157計算期間末日	(2019年 3月 5日)	4,371,407,574	4,378,613,747	9,099	9,114
第158計算期間末日	(2019年 4月 5日)	4,390,360,212	4,397,530,673	9,184	9,199
第159計算期間末日	(2019年 5月 7日)	4,298,883,885	4,306,014,019	9,044	9,059
第160計算期間末日	(2019年 6月 5日)	4,206,017,393	4,213,098,353	8,910	8,925
第161計算期間末日	(2019年 7月 5日)	4,190,782,045	4,197,658,594	9,141	9,156
第162計算期間末日	(2019年 8月 5日)	4,062,631,679	4,069,476,884	8,903	8,918
第163計算期間末日	(2019年 9月 5日)	4,121,515,047	4,128,350,353	9,045	9,060
第164計算期間末日	(2019年10月 7日)	4,164,818,376	4,171,632,314	9,168	9,183
第165計算期間末日	(2019年11月 5日)	4,249,485,795	4,256,261,518	9,407	9,422
第166計算期間末日	(2019年12月 5日)	4,221,716,394	4,228,455,603	9,397	9,412
第167計算期間末日	(2020年 1月 6日)	4,180,942,855	4,187,629,462	9,379	9,394
第168計算期間末日	(2020年 2月 5日)	4,186,462,581	4,193,130,163	9,418	9,433
第169計算期間末日	(2020年 3月 5日)	4,015,050,584	4,021,677,602	9,088	9,103
第170計算期間末日	(2020年 4月 6日)	3,573,463,502	3,580,081,260	8,100	8,115
第171計算期間末日	(2020年 5月 7日)	3,668,667,025	3,675,284,076	8,316	8,331
第172計算期間末日	(2020年 6月 5日)	3,957,257,946	3,963,847,086	9,009	9,024
第173計算期間末日	(2020年 7月 6日)	3,898,383,354	3,904,969,394	8,879	8,894
第174計算期間末日	(2020年 8月 5日)	3,914,341,569	3,920,900,863	8,951	8,966
第175計算期間末日	(2020年 9月 7日)	3,942,598,016	3,949,114,462	9,075	9,090
第176計算期間末日	(2020年10月 5日)	3,884,166,159	3,890,633,650	9,009	9,024
第177計算期間末日	(2020年11月 5日)	3,816,430,757	3,822,871,846	8,888	8,903
第178計算期間末日	(2020年12月 7日)	3,859,257,221	3,865,652,236	9,052	9,067

第179計算期間末日	(2021年 1月 5日)	3,891,268,540	3,897,607,045	9,209	9,224
第180計算期間末日	(2021年 2月 5日)	3,888,984,607	3,895,199,168	9,387	9,402
第181計算期間末日	(2021年 3月 5日)	3,887,278,100	3,893,433,420	9,473	9,488
第182計算期間末日	(2021年 4月 5日)	3,989,954,915	3,996,059,611	9,804	9,819
第183計算期間末日	(2021年 5月 6日)	3,949,840,844	3,955,867,029	9,832	9,847
第184計算期間末日	(2021年 6月 7日)	3,978,512,655	3,984,496,217	9,974	9,989
第185計算期間末日	(2021年 7月 5日)	3,971,112,157	3,977,075,738	9,988	10,003
第186計算期間末日	(2021年 8月 5日)	3,912,628,021	3,918,553,899	9,904	9,919
第187計算期間末日	(2021年 9月 6日)	3,903,435,674	3,909,317,515	9,955	9,970
第188計算期間末日	(2021年10月 5日)	3,775,073,949	3,780,911,548	9,700	9,715
第189計算期間末日	(2021年11月 5日)	3,831,812,913	3,837,607,943	9,918	9,933
第190計算期間末日	(2021年12月 6日)	3,674,846,329	3,680,607,621	9,568	9,583
第191計算期間末日	(2022年 1月 5日)	3,755,417,367	3,761,127,504	9,865	9,880
第192計算期間末日	(2022年 2月 7日)	3,602,929,579	3,608,617,299	9,502	9,517
第193計算期間末日	(2022年 3月 7日)	3,554,356,278	3,560,031,889	9,394	9,409
第194計算期間末日	(2022年 4月 5日)	3,739,078,309	3,744,742,745	9,901	9,916
第195計算期間末日	(2022年 5月 6日)	3,673,264,423	3,678,909,559	9,760	9,775
第196計算期間末日	(2022年 6月 6日)	3,684,423,452	3,690,045,300	9,831	9,846
第197計算期間末日	(2022年 7月 5日)	3,646,662,810	3,652,265,737	9,763	9,778
第198計算期間末日	(2022年 8月 5日)	3,665,145,189	3,670,729,473	9,845	9,860
第199計算期間末日	(2022年 9月 5日)	3,615,054,621	3,620,620,201	9,743	9,758
第200計算期間末日	(2022年10月 5日)	3,546,723,970	3,552,281,755	9,572	9,587
第201計算期間末日	(2022年11月 7日)	3,577,908,534	3,583,463,196	9,662	9,677
第202計算期間末日	(2022年12月 5日)	3,540,272,929	3,545,792,467	9,621	9,636
第203計算期間末日	(2023年 1月 5日)	3,396,403,668	3,401,901,515	9,267	9,282
第204計算期間末日	(2023年 2月 6日)	3,456,860,461	3,462,331,781	9,477	9,492
第205計算期間末日	(2023年 3月 6日)	3,417,528,056	3,422,969,318	9,421	9,436
第206計算期間末日	(2023年 4月 5日)	3,415,722,037	3,421,150,968	9,438	9,453
第207計算期間末日	(2023年 5月 8日)	3,465,087,012	3,470,472,744	9,651	9,666
第208計算期間末日	(2023年 6月 5日)	3,440,218,595	3,445,528,636	9,718	9,733
第209計算期間末日	(2023年 7月 5日)	3,534,577,705	3,539,852,044	10,052	10,067
第210計算期間末日	(2023年 8月 7日)	3,463,319,571	3,468,572,724	9,889	9,904
第211計算期間末日	(2023年 9月 5日)	3,532,256,540	3,537,486,081	10,132	10,147
第212計算期間末日	(2023年10月 5日)	3,407,723,173	3,412,926,692	9,823	9,838
第213計算期間末日	(2023年11月 6日)	3,475,618,896	3,480,772,597	10,116	10,131
2022年11月末日		3,582,577,869	—	9,731	—
12月末日		3,409,554,485	—	9,302	—
2023年 1月末日		3,453,060,738	—	9,442	—
2月末日		3,420,691,567	—	9,420	—
3月末日		3,416,112,525	—	9,439	—
4月末日		3,426,173,560	—	9,528	—
5月末日		3,399,741,709	—	9,597	—

6月末日	3,518,681,231	—	10,003	—
7月末日	3,490,313,435	—	9,966	—
8月末日	3,515,909,063	—	10,082	—
9月末日	3,501,128,509	—	10,070	—
10月末日	3,385,297,164	—	9,842	—
11月末日	3,512,444,932	—	10,260	—

②【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第94計算期間	15円
第95計算期間	15円
第96計算期間	15円
第97計算期間	15円
第98計算期間	15円
第99計算期間	15円
第100計算期間	15円
第101計算期間	15円
第102計算期間	15円
第103計算期間	15円
第104計算期間	15円
第105計算期間	15円
第106計算期間	15円
第107計算期間	15円
第108計算期間	15円
第109計算期間	15円
第110計算期間	15円
第111計算期間	15円
第112計算期間	15円
第113計算期間	15円
第114計算期間	15円
第115計算期間	15円
第116計算期間	15円
第117計算期間	15円
第118計算期間	15円
第119計算期間	15円
第120計算期間	15円
第121計算期間	15円
第122計算期間	15円
第123計算期間	15円
第124計算期間	15円
第125計算期間	15円
第126計算期間	15円

第127計算期間	15円
第128計算期間	15円
第129計算期間	15円
第130計算期間	15円
第131計算期間	15円
第132計算期間	15円
第133計算期間	15円
第134計算期間	15円
第135計算期間	15円
第136計算期間	15円
第137計算期間	15円
第138計算期間	15円
第139計算期間	15円
第140計算期間	15円
第141計算期間	15円
第142計算期間	15円
第143計算期間	15円
第144計算期間	15円
第145計算期間	15円
第146計算期間	15円
第147計算期間	15円
第148計算期間	15円
第149計算期間	15円
第150計算期間	15円
第151計算期間	15円
第152計算期間	15円
第153計算期間	15円
第154計算期間	15円
第155計算期間	15円
第156計算期間	15円
第157計算期間	15円
第158計算期間	15円
第159計算期間	15円
第160計算期間	15円
第161計算期間	15円
第162計算期間	15円
第163計算期間	15円
第164計算期間	15円
第165計算期間	15円
第166計算期間	15円
第167計算期間	15円
第168計算期間	15円

第169計算期間	15円
第170計算期間	15円
第171計算期間	15円
第172計算期間	15円
第173計算期間	15円
第174計算期間	15円
第175計算期間	15円
第176計算期間	15円
第177計算期間	15円
第178計算期間	15円
第179計算期間	15円
第180計算期間	15円
第181計算期間	15円
第182計算期間	15円
第183計算期間	15円
第184計算期間	15円
第185計算期間	15円
第186計算期間	15円
第187計算期間	15円
第188計算期間	15円
第189計算期間	15円
第190計算期間	15円
第191計算期間	15円
第192計算期間	15円
第193計算期間	15円
第194計算期間	15円
第195計算期間	15円
第196計算期間	15円
第197計算期間	15円
第198計算期間	15円
第199計算期間	15円
第200計算期間	15円
第201計算期間	15円
第202計算期間	15円
第203計算期間	15円
第204計算期間	15円
第205計算期間	15円
第206計算期間	15円
第207計算期間	15円
第208計算期間	15円
第209計算期間	15円
第210計算期間	15円

第211計算期間	15円
第212計算期間	15円
第213計算期間	15円

③【収益率の推移】

	収益率（％）
第94計算期間	1.18
第95計算期間	3.27
第96計算期間	△3.89
第97計算期間	2.78
第98計算期間	1.18
第99計算期間	△0.08
第100計算期間	1.79
第101計算期間	1.89
第102計算期間	0.25
第103計算期間	1.99
第104計算期間	0.59
第105計算期間	3.97
第106計算期間	5.58
第107計算期間	△0.50
第108計算期間	△2.12
第109計算期間	2.59
第110計算期間	0.21
第111計算期間	0.41
第112計算期間	2.14
第113計算期間	△3.17
第114計算期間	1.65
第115計算期間	△8.63
第116計算期間	3.37
第117計算期間	2.05
第118計算期間	1.75
第119計算期間	△3.62
第120計算期間	△0.36
第121計算期間	△0.32
第122計算期間	△1.10
第123計算期間	△1.52
第124計算期間	△0.03
第125計算期間	△3.34
第126計算期間	△0.76
第127計算期間	2.92
第128計算期間	△1.57
第129計算期間	△0.16

第130計算期間	5.17
第131計算期間	2.98
第132計算期間	△1.46
第133計算期間	0.25
第134計算期間	△2.34
第135計算期間	1.81
第136計算期間	0.21
第137計算期間	1.35
第138計算期間	0.73
第139計算期間	△1.16
第140計算期間	2.09
第141計算期間	1.01
第142計算期間	△0.11
第143計算期間	2.90
第144計算期間	△1.04
第145計算期間	△5.15
第146計算期間	2.03
第147計算期間	0.69
第148計算期間	0.82
第149計算期間	△1.38
第150計算期間	0.94
第151計算期間	△0.79
第152計算期間	1.96
第153計算期間	△1.77
第154計算期間	0.87
第155計算期間	△3.81
第156計算期間	3.40
第157計算期間	1.14
第158計算期間	1.09
第159計算期間	△1.36
第160計算期間	△1.31
第161計算期間	2.76
第162計算期間	△2.43
第163計算期間	1.76
第164計算期間	1.52
第165計算期間	2.77
第166計算期間	0.05
第167計算期間	△0.03
第168計算期間	0.57
第169計算期間	△3.34
第170計算期間	△10.70
第171計算期間	2.85

第172計算期間	8.51
第173計算期間	△1.27
第174計算期間	0.97
第175計算期間	1.55
第176計算期間	△0.56
第177計算期間	△1.17
第178計算期間	2.01
第179計算期間	1.90
第180計算期間	2.09
第181計算期間	1.07
第182計算期間	3.65
第183計算期間	0.43
第184計算期間	1.59
第185計算期間	0.29
第186計算期間	△0.69
第187計算期間	0.66
第188計算期間	△2.41
第189計算期間	2.40
第190計算期間	△3.37
第191計算期間	3.26
第192計算期間	△3.52
第193計算期間	△0.97
第194計算期間	5.55
第195計算期間	△1.27
第196計算期間	0.88
第197計算期間	△0.53
第198計算期間	0.99
第199計算期間	△0.88
第200計算期間	△1.60
第201計算期間	1.09
第202計算期間	△0.26
第203計算期間	△3.52
第204計算期間	2.42
第205計算期間	△0.43
第206計算期間	0.33
第207計算期間	2.41
第208計算期間	0.84
第209計算期間	3.59
第210計算期間	△1.47
第211計算期間	2.60
第212計算期間	△2.90
第213計算期間	3.13

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第94計算期間	4,722,026	408,304,122	12,049,829,122
第95計算期間	5,608,302	654,924,725	11,400,512,699
第96計算期間	4,712,760	161,575,818	11,243,649,641
第97計算期間	3,682,759	128,359,872	11,118,972,528
第98計算期間	3,450,389	200,201,459	10,922,221,458
第99計算期間	3,345,193	99,798,313	10,825,768,338
第100計算期間	3,351,967	133,032,203	10,696,088,102
第101計算期間	4,341,106	172,942,473	10,527,486,735
第102計算期間	3,174,299	131,498,175	10,399,162,859
第103計算期間	3,131,137	253,886,762	10,148,407,234
第104計算期間	3,495,917	245,802,050	9,906,101,101
第105計算期間	2,870,365	125,015,603	9,783,955,863
第106計算期間	2,717,382	355,603,356	9,431,069,889
第107計算期間	2,613,372	128,623,366	9,305,059,895
第108計算期間	2,633,305	113,220,370	9,194,472,830
第109計算期間	2,531,108	137,792,694	9,059,211,244
第110計算期間	2,412,347	250,141,615	8,811,481,976
第111計算期間	2,340,705	193,377,102	8,620,445,579
第112計算期間	2,249,016	228,524,514	8,394,170,081
第113計算期間	2,273,629	117,223,715	8,279,219,995
第114計算期間	7,188,077	101,712,095	8,184,695,977
第115計算期間	2,153,624	132,073,648	8,054,775,953
第116計算期間	2,325,116	140,483,257	7,916,617,812
第117計算期間	4,238,820	291,244,103	7,629,612,529
第118計算期間	2,158,480	195,257,393	7,436,513,616
第119計算期間	2,074,474	90,978,584	7,347,609,506
第120計算期間	2,138,582	79,364,503	7,270,383,585
第121計算期間	2,126,349	138,561,849	7,133,948,085
第122計算期間	2,133,119	143,771,263	6,992,309,941
第123計算期間	2,129,356	60,879,195	6,933,560,102
第124計算期間	2,144,615	51,220,285	6,884,484,432
第125計算期間	2,160,416	90,492,251	6,796,152,597
第126計算期間	2,727,368	65,877,189	6,733,002,776
第127計算期間	2,174,624	79,913,798	6,655,263,602
第128計算期間	2,113,534	73,350,829	6,584,026,307
第129計算期間	2,147,053	131,473,163	6,454,700,197
第130計算期間	2,106,167	75,757,226	6,381,049,138
第131計算期間	1,970,216	135,549,954	6,247,469,400

第132計算期間	1,930,807	106,485,338	6,142,914,869
第133計算期間	2,103,694	64,677,584	6,080,340,979
第134計算期間	4,124,217	106,084,450	5,978,380,746
第135計算期間	1,912,840	80,174,110	5,900,119,476
第136計算期間	1,875,367	97,340,688	5,804,654,155
第137計算期間	1,852,947	57,208,979	5,749,298,123
第138計算期間	1,821,797	84,331,925	5,666,787,995
第139計算期間	1,750,003	84,409,332	5,584,128,666
第140計算期間	1,763,579	74,930,179	5,510,962,066
第141計算期間	1,705,206	131,705,269	5,380,962,003
第142計算期間	1,631,741	86,617,014	5,295,976,730
第143計算期間	2,165,306	73,259,481	5,224,882,555
第144計算期間	10,794,181	29,130,486	5,206,546,250
第145計算期間	1,570,758	27,250,369	5,180,866,639
第146計算期間	1,659,729	46,853,674	5,135,672,694
第147計算期間	1,637,156	27,002,052	5,110,307,798
第148計算期間	1,628,888	68,384,436	5,043,552,250
第149計算期間	4,271,672	50,165,177	4,997,658,745
第150計算期間	1,646,667	17,867,364	4,981,438,048
第151計算期間	1,590,849	30,250,931	4,952,777,966
第152計算期間	1,713,963	32,583,941	4,921,907,988
第153計算期間	1,574,164	15,296,126	4,908,186,026
第154計算期間	1,620,538	40,799,024	4,869,007,540
第155計算期間	1,586,965	13,178,149	4,857,416,356
第156計算期間	1,647,606	25,416,493	4,833,647,469
第157計算期間	1,582,877	31,114,580	4,804,115,766
第158計算期間	1,559,980	25,367,840	4,780,307,906
第159計算期間	1,543,281	28,428,199	4,753,422,988
第160計算期間	1,576,772	34,359,294	4,720,640,466
第161計算期間	1,546,025	137,819,906	4,584,366,585
第162計算期間	1,500,539	22,396,568	4,563,470,556
第163計算期間	1,583,120	8,182,580	4,556,871,096
第164計算期間	1,539,886	15,785,150	4,542,625,832
第165計算期間	1,500,777	26,977,432	4,517,149,177
第166計算期間	1,447,067	25,789,865	4,492,806,379
第167計算期間	1,450,397	36,518,147	4,457,738,629
第168計算期間	1,971,954	14,655,320	4,445,055,263
第169計算期間	1,459,518	28,502,441	4,418,012,340
第170計算期間	1,620,029	7,793,227	4,411,839,142
第171計算期間	1,686,999	2,158,321	4,411,367,820
第172計算期間	1,730,238	20,337,909	4,392,760,149
第173計算期間	2,089,324	4,155,979	4,390,693,494

第174計算期間	1,591,015	19,421,447	4,372,863,062
第175計算期間	1,540,882	30,106,212	4,344,297,732
第176計算期間	1,499,235	34,135,662	4,311,661,305
第177計算期間	1,550,339	19,152,177	4,294,059,467
第178計算期間	1,544,841	32,260,827	4,263,343,481
第179計算期間	1,553,849	39,227,236	4,225,670,094
第180計算期間	1,477,554	84,106,947	4,143,040,701
第181計算期間	1,436,046	40,929,481	4,103,547,266
第182計算期間	1,419,953	35,169,535	4,069,797,684
第183計算期間	1,377,544	53,718,111	4,017,457,117
第184計算期間	1,482,277	29,897,956	3,989,041,438
第185計算期間	1,361,129	14,681,671	3,975,720,896
第186計算期間	1,357,802	26,492,967	3,950,585,731
第187計算期間	1,595,194	30,953,365	3,921,227,560
第188計算期間	1,536,897	31,031,472	3,891,732,985
第189計算期間	1,386,676	29,766,009	3,863,353,652
第190計算期間	1,333,584	23,825,448	3,840,861,788
第191計算期間	1,371,913	35,475,607	3,806,758,094
第192計算期間	1,354,524	16,298,995	3,791,813,623
第193計算期間	1,400,570	9,473,189	3,783,741,004
第194計算期間	1,402,058	8,852,328	3,776,290,734
第195計算期間	1,343,774	14,210,223	3,763,424,285
第196計算期間	1,795,755	17,320,871	3,747,899,169
第197計算期間	1,860,446	14,474,511	3,735,285,104
第198計算期間	1,366,336	13,794,924	3,722,856,516
第199計算期間	1,373,829	13,843,314	3,710,387,031
第200計算期間	1,449,401	6,645,854	3,705,190,578
第201計算期間	1,437,511	3,519,490	3,703,108,599
第202計算期間	1,404,155	24,820,333	3,679,692,421
第203計算期間	2,456,655	16,917,528	3,665,231,548
第204計算期間	1,417,983	19,102,286	3,647,547,245
第205計算期間	1,370,657	21,409,616	3,627,508,286
第206計算期間	1,386,909	9,607,834	3,619,287,361
第207計算期間	1,391,443	30,190,174	3,590,488,630
第208計算期間	1,371,207	51,832,438	3,540,027,399
第209計算期間	1,371,480	25,172,323	3,516,226,556
第210計算期間	1,300,252	15,424,470	3,502,102,338
第211計算期間	1,320,715	17,062,374	3,486,360,679
第212計算期間	1,277,838	18,625,591	3,469,012,926
第213計算期間	1,793,926	35,005,885	3,435,800,967

(参考)

高金利高格付債券マザーファンド

投資状況

2023年11月30日現在
(単位：円)

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
国債証券	ニュージーランド	421,409,149	19.90
	アメリカ	396,223,741	18.72
	イギリス	344,868,496	16.29
	オーストラリア	310,349,268	14.66
	ノルウェー	272,900,996	12.89
	カナダ	266,378,281	12.58
	小計	2,012,129,931	95.04
特殊債券	オーストラリア	32,866,805	1.55
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	72,146,027	3.41
純資産総額		2,117,142,763	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

2023年11月30日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	利率 (%)	償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
イギリス	国債証券	4.25 GILT 461207	750,000	17,270.64	129,529,810	17,755.93	133,169,547	4.250000	2046/12/7	6.29
ニュージーランド	国債証券	3 NZ GOVT 290420	1,200,000	8,177.45	98,129,422	8,294.29	99,531,532	3.000000	2029/4/20	4.70
カナダ	国債証券	0.5 CAN GOVT 301201	950,000	8,655.60	82,228,231	8,804.23	83,640,275	0.500000	2030/12/1	3.95
オーストラリア	国債証券	4.5 AUST GOVT 330421	800,000	9,597.37	76,778,977	9,857.17	78,857,382	4.500000	2033/4/21	3.72
ニュージーランド	国債証券	3.5 NZ GOVT 330414	920,000	7,911.03	72,781,507	8,108.45	74,597,740	3.500000	2033/4/14	3.52
オーストラリア	国債証券	2.5 AUST GOVT 300521	700,000	8,645.40	60,517,854	8,828.44	61,799,095	2.500000	2030/5/21	2.92
カナダ	国債証券	0.25 CAN GOVT 260301	590,000	9,880.02	58,292,170	9,959.00	58,758,125	0.250000	2026/3/1	2.78
ノルウェー	国債証券	2.125 NORWE GOVT 320518	4,700,000	1,217.08	57,202,799	1,242.79	58,411,367	2.125000	2032/5/18	2.76
ニュージーランド	国債証券	1.5 NZ GOVT 310515	800,000	7,008.68	56,069,471	7,165.85	57,326,848	1.500000	2031/5/15	2.71
アメリカ	国債証券	3.25 T-NOTE 270630	400,000	14,059.54	56,238,188	14,184.49	56,737,997	3.250000	2027/6/30	2.68
ニュージーランド	国債証券	2.75 NZ GOVT 250415	600,000	8,739.78	52,438,738	8,774.84	52,649,054	2.750000	2025/4/15	2.49
オーストラリア	国債証券	4.75 AUST GOVT 270421	520,000	9,888.23	51,418,800	9,970.28	51,845,486	4.750000	2027/4/21	2.45
アメリカ	国債証券	4.25 T-NOTE 251015	350,000	14,537.52	50,881,336	14,590.09	51,065,318	4.250000	2025/10/15	2.41

ノルウェー	国債証券	1.75 NORWE GOVT 270217	3,850,000	1,293.44	49,797,617	1,299.26	50,021,722	1.750000	2027/2/17	2.36
アメリカ	国債証券	0.5 T-NOTE 270430	380,000	12,789.91	48,601,693	12,927.79	49,125,630	0.500000	2027/4/30	2.32
アメリカ	国債証券	4.5 T-BOND 380515	300,000	14,356.55	43,069,679	14,833.38	44,500,164	4.500000	2038/5/15	2.10
ニュージーランド	国債証券	1.75 NZ GOVT 410515	800,000	5,321.29	42,570,356	5,544.66	44,357,351	1.750000	2041/5/15	2.10
オーストラリア	国債証券	1.5 AUST GOVT 310621	530,000	7,818.68	41,439,015	8,023.65	42,525,383	1.500000	2031/6/21	2.01
カナダ	国債証券	4 CAN GOVT 410601	350,000	11,231.33	39,309,685	11,589.00	40,561,500	4.000000	2041/6/1	1.92
アメリカ	国債証券	1.25 T-NOTE 280630	300,000	12,700.29	38,100,896	12,869.77	38,609,321	1.250000	2028/6/30	1.82
イギリス	国債証券	4.25 GILT 320607	200,000	18,763.93	37,527,860	19,022.10	38,044,211	4.250000	2032/6/7	1.80
ノルウェー	国債証券	1.75 NORWE GOVT 290906	3,000,000	1,238.78	37,163,538	1,254.90	37,647,109	1.750000	2029/9/6	1.78
ノルウェー	国債証券	2 NORWE GOVT 280426	2,800,000	1,282.84	35,919,648	1,293.16	36,208,715	2.000000	2028/4/26	1.71
アメリカ	国債証券	1.125 T-NOTE 310215	300,000	11,670.80	35,012,426	11,922.72	35,768,170	1.125000	2031/2/15	1.69
ノルウェー	国債証券	1.375 NORWE GOVT 300819	2,900,000	1,187.96	34,451,127	1,207.28	35,011,284	1.375000	2030/8/19	1.65
イギリス	国債証券	3.25 GILT 330131	200,000	17,208.33	34,416,660	17,502.23	35,004,474	3.250000	2033/1/31	1.65
ニュージーランド	国債証券	2.75 NZ GOVT 370415	490,000	6,796.20	33,301,397	7,028.66	34,440,436	2.750000	2037/4/15	1.63
ニュージーランド	国債証券	4.5 NZ GOVT 270415	380,000	8,911.26	33,862,796	8,969.19	34,082,929	4.500000	2027/4/15	1.61
オーストラリア	特殊債券	6.5 QUEENSLAND 330314	300,000	10,656.53	31,969,609	10,955.60	32,866,805	6.500000	2033/3/14	1.55
イギリス	国債証券	6 GILT 281207	160,000	20,244.95	32,391,928	20,356.59	32,570,547	6.000000	2028/12/7	1.54

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2023年11月30日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	95.04
特殊債券	1.55
合計	96.59

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

好配当日本株マザーファンド

投資状況

2023年11月30日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
株式	日本	682,466,260	97.67
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	16,256,971	2.33

純資産総額	698,723,231	100.00
-------	-------------	--------

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

2023年11月30日現在

国／地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	18,700	2,846.00	53,220,200	2,794.50	52,257,150	7.48
日本	株式	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	37,100	1,269.50	47,098,450	1,255.00	46,560,500	6.66
日本	株式	三菱商事	卸売業	4,700	6,998.00	32,890,600	6,886.00	32,364,200	4.63
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	164,800	176.90	29,153,120	173.10	28,526,880	4.08
日本	株式	武田薬品工業	医薬品	5,000	4,131.00	20,655,000	4,165.00	20,825,000	2.98
日本	株式	東京海上ホールディングス	保険業	5,500	3,494.00	19,217,000	3,648.00	20,064,000	2.87
日本	株式	日本製鉄	鉄鋼	5,800	3,250.00	18,850,000	3,457.00	20,050,600	2.87
日本	株式	三菱ケミカルグループ	化学	18,600	966.44	17,975,953	968.50	18,014,100	2.58
日本	株式	第一生命ホールディングス	保険業	5,800	3,192.00	18,513,600	3,081.00	17,869,800	2.56
日本	株式	ソフトバンク	情報・通信業	9,500	1,699.50	16,145,250	1,798.50	17,085,750	2.45
日本	株式	任天堂	その他製品	2,400	6,478.80	15,549,137	6,912.00	16,588,800	2.37
日本	株式	マツダ	輸送用機器	10,300	1,500.00	15,450,000	1,578.50	16,258,550	2.33
日本	株式	丸紅	卸売業	6,900	2,336.00	16,118,400	2,307.00	15,918,300	2.28
日本	株式	りそなホールディングス	銀行業	19,200	794.10	15,246,720	768.50	14,755,200	2.11
日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1,700	7,340.00	12,478,000	7,258.00	12,338,600	1.77
日本	株式	三和ホールディングス	金属製品	5,700	2,203.00	12,557,100	2,121.00	12,089,700	1.73
日本	株式	アマダ	機械	7,900	1,510.50	11,932,950	1,482.50	11,711,750	1.68
日本	株式	インフロニア・ホールディングス	建設業	7,500	1,550.50	11,628,750	1,561.50	11,711,250	1.68
日本	株式	三菱瓦斯化学	化学	4,700	2,148.40	10,097,485	2,337.50	10,986,250	1.57
日本	株式	オリックス	その他金融業	3,700	2,711.00	10,030,700	2,698.50	9,984,450	1.43
日本	株式	ダイヘン	電気機器	1,700	5,558.04	9,448,675	5,830.00	9,911,000	1.42
日本	株式	サワイグループホールディングス	医薬品	2,000	4,791.00	9,582,000	4,918.00	9,836,000	1.41
日本	株式	豊田通商	卸売業	1,200	8,960.00	10,752,000	8,190.00	9,828,000	1.41
日本	株式	日本曹達	化学	1,800	5,452.09	9,813,767	5,340.00	9,612,000	1.38
日本	株式	積水ハウス	建設業	3,100	3,003.63	9,311,265	3,029.00	9,389,900	1.34
日本	株式	ニコン	精密機器	6,500	1,498.50	9,740,250	1,424.50	9,259,250	1.33
日本	株式	コスモエネルギーホールディングス	石油・石炭製品	1,600	5,502.00	8,803,200	5,635.00	9,016,000	1.29
日本	株式	本田技研工業	輸送用機器	5,800	1,621.25	9,403,299	1,509.00	8,752,200	1.25
日本	株式	川崎重工業	輸送用機器	2,600	3,453.77	8,979,821	3,363.00	8,743,800	1.25
日本	株式	野村不動産ホールディングス	不動産業	2,400	3,667.00	8,800,800	3,604.00	8,649,600	1.24

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2023年11月30日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式	鉱業	0.36
	建設業	3.22
	食料品	0.84
	繊維製品	0.64
	化学	7.40
	医薬品	4.39
	石油・石炭製品	1.29
	ゴム製品	1.13
	鉄鋼	2.87
	非鉄金属	2.11
	金属製品	3.66
	機械	3.39
	電気機器	3.80
	輸送用機器	14.71
	精密機器	2.34
	その他製品	2.37
	電気・ガス業	0.95
	陸運業	0.71
	海運業	0.85
	倉庫・運輸関連業	1.08
	情報・通信業	7.22
	卸売業	9.27
	小売業	2.04
	銀行業	10.65
	証券、商品先物取引業	1.06
	保険業	5.43
	その他金融業	1.43
	不動産業	1.24
	サービス業	1.25
	小計	97.67
合計		97.67

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

Jリートマザーファンド2005

投資状況

2023年11月30日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
投資証券	日本	677,712,400	98.25
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	12,053,820	1.75
純資産総額		689,766,220	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

2023年11月30日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	投資証券	日本ビルファンド投資法人	77	612,036.89	47,126,841	621,000	47,817,000	6.93
日本	投資証券	日本プロロジスリート投資法人	130	271,366.39	35,277,631	280,400	36,452,000	5.28
日本	投資証券	ジャパンリアルエステイト投資法人	59	569,095.37	33,576,627	575,000	33,925,000	4.92
日本	投資証券	KDX不動産投資法人	200	162,800	32,560,000	169,500	33,900,000	4.91
日本	投資証券	積水ハウス・リート投資法人	370	80,100	29,637,000	84,700	31,339,000	4.54
日本	投資証券	野村不動産マスターファンド投資法人	180	170,600	30,708,000	169,800	30,564,000	4.43
日本	投資証券	GLP投資法人	210	139,900	29,379,000	139,700	29,337,000	4.25
日本	投資証券	インヴィンシブル投資法人	480	57,819.43	27,753,330	60,000	28,800,000	4.18
日本	投資証券	日本都市ファンド投資法人	290	97,300	28,217,000	98,500	28,565,000	4.14
日本	投資証券	大和ハウスリート投資法人	85	276,800	23,528,000	263,800	22,423,000	3.25
日本	投資証券	アクティビア・プロパティーズ投資法人	54	409,000	22,086,000	406,500	21,951,000	3.18
日本	投資証券	三菱地所物流リート投資法人	55	384,000	21,120,000	383,000	21,065,000	3.05
日本	投資証券	ラサールロジポート投資法人	130	150,272.86	19,535,472	157,600	20,488,000	2.97
日本	投資証券	オリックス不動産投資法人	115	177,000	20,355,000	174,400	20,056,000	2.91
日本	投資証券	アドバンス・レジデンス投資法人	58	335,500	19,459,000	325,000	18,850,000	2.73
日本	投資証券	ユナイテッド・アーバン投資法人	130	153,200	19,916,000	145,000	18,850,000	2.73
日本	投資証券	日本アコモデーションファンド投資法人	27	626,000	16,902,000	608,000	16,416,000	2.38
日本	投資証券	サンケイリアルエステート投資法人	150	92,300	13,845,000	92,700	13,905,000	2.02
日本	投資証券	One リート投資法人	50	260,800	13,040,000	265,900	13,295,000	1.93
日本	投資証券	日本プライムリアルティ投資法人	35	354,000	12,390,000	371,000	12,985,000	1.88
日本	投資証券	スターアジア不動産投資法人	220	57,800	12,716,000	57,700	12,694,000	1.84
日本	投資証券	スターツプロシード投資法人	58	211,100	12,243,800	205,300	11,907,400	1.73
日本	投資証券	いちごオフィスリート投資法人	140	84,996.72	11,899,542	84,800	11,872,000	1.72
日本	投資証券	アドバンス・ロジスティクス投資法人	90	124,500	11,205,000	128,700	11,583,000	1.68
日本	投資証券	産業ファンド投資法人	70	138,200	9,674,000	138,000	9,660,000	1.40
日本	投資証券	日本ロジスティクスファンド投資法人	30	286,100	8,583,000	288,500	8,655,000	1.25
日本	投資証券	ジャパン・ホテル・リート投資法人	120	67,800	8,136,000	69,400	8,328,000	1.21

日本	投資証券	三井不動産ロジスティクスパーク投資法人	17	470,500	7,998,500	467,000	7,939,000	1.15
日本	投資証券	イオンリート投資法人	55	145,000	7,975,000	143,800	7,909,000	1.15
日本	投資証券	エスコンジャパンリート投資法人	65	118,200	7,683,000	118,400	7,696,000	1.12

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2023年11月30日現在

種類	投資比率（％）
投資証券	98.25
合計	98.25

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

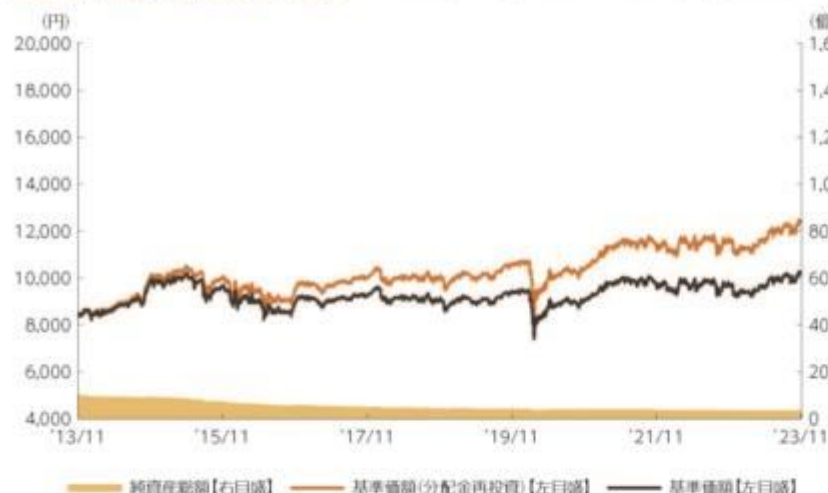
《参考情報》



運用実績

2023年11月30日現在

■基準価額・純資産の推移 2013年11月29日～2023年11月30日



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	10,260円
純資産総額	35.1億円

・純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2023年11月	15円
2023年10月	15円
2023年9月	15円
2023年8月	15円
2023年7月	15円
2023年6月	15円
直近1年間累計	180円
設定来累計	5,250円

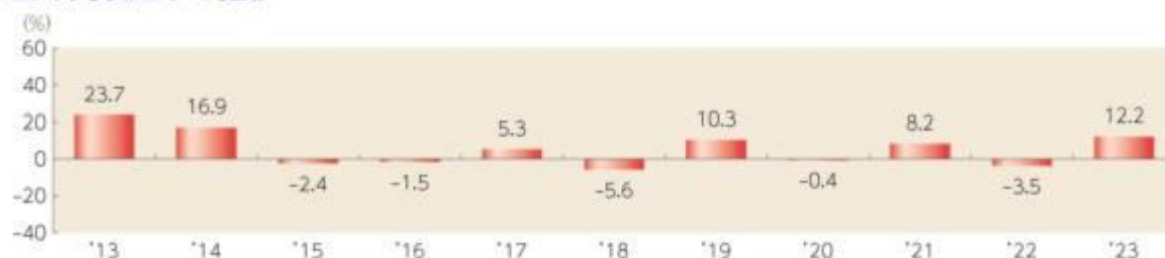
・分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	19.4%	1 円	39.9%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	1.5%
国内リート	19.3%	2 ニュージーランドドル	12.2%	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	日本	1.3%
外国債券	58.2%	3 オーストラリアドル	12.1%	三菱商事	株式	卸売業	日本	0.9%
		4 アメリカドル	10.2%	日本電信電話	株式	情報・通信業	日本	0.8%
		5 イギリスポンド	10.2%	4.25 GILT 461207	債券	国債	イギリス	3.8%
		6 ノルウェークローネ	7.8%	3 NZ GOVT 290420	債券	国債	ニュージーランド	2.8%
		7 カナダドル	7.7%	0.5 CAN GOVT 301201	債券	国債	カナダ	2.4%
コールローン他 (負債控除後)	3.1%			日本ビルファンド投資法人	リート	—	日本	1.4%
合計	100.0%			日本プロロジスリート投資法人	リート	—	日本	1.0%
				ジャパンリアルエステイト投資法人	リート	—	日本	1.0%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- ・「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移



- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2023年は年初から11月30日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

①申込みの受付

原則として、いつでも申込みができます。

ただし、以下の日は申込みができません。

復活祭（Easter Day）に該当する日の前営業日および翌営業日

クリスマス（12月25日）および翌営業日

取得申込者の受益権は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

②申込単位

販売会社が定める単位

③申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額

④申込価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

⑤申込単位・申込価額の照会方法

申込単位および申込価額は、販売会社にてご確認いただけます。

また、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

なお、申込価額は委託会社のホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

⑥申込手数料

申込価額（発行価格）×2.75%（税抜 2.5%）を上限として販売会社が定める手数料率

申込みには分配金受取コース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があり、分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

⑦申込方法

取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、申込みを行うものとします。

取得申込者は、申込金額および申込手数料（税込）を販売会社が定める日までに支払うものとします。

なお、申込みには分配金受取コース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があります。申込みコースの取扱いの販売会社により異なる場合があります。

⑧申込受付時間

取得の申込みは、申込期間において、原則として販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の方法で行われます。取得申込みが行われ、かつ当該取得申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての申込みに関しては販売会社にご確認ください。

⑨取得申込みの受付の中止および取消し

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することがあります。

※申込（販売）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

2【換金（解約）手続等】

①解約の受付

原則として、いつでも解約の請求ができます。

ただし、以下の日は解約の請求ができません。

復活祭（Easter Day）に該当する日の前営業日および翌営業日
クリスマス（12月25日）および翌営業日
受益者の解約請求に係る受益権の口数の減少は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

②解約単位

販売会社が定める単位

③解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額

④信託財産留保額

ありません。

⑤解約価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

⑥解約価額の照会方法

解約価額は、販売会社にてご確認いただけます。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

⑦支払開始日

解約代金は、原則として解約請求受付日から起算して5営業日目から販売会社において支払います。

⑧解約請求受付時間

解約の請求は、原則として販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の方法で行われます。解約請求が行われ、かつ当該換金請求に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての請求に関しては販売会社にご確認ください。

⑨解約請求受付の中止および取消し

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することがあります。その場合には、受益者は、当該受付中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受け付けたものとしします。

また、市況動向等により、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。

※換金（解約）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

①基準価額の算出方法

基準価額＝信託財産の純資産総額÷受益権総口数

なお、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

「信託財産の純資産総額」とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

す。

（資産の評価方法）

・株式／上場投資信託証券／不動産投資信託証券

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場（外国で取引されているものについては、原則として、金融商品取引所における計算時に知りうる直近の日の最終相場）で評価します。

・転換社債／転換社債型新株予約権付社債

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額（外国で取引されているものについては、原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額）で評価します。

・公社債等

原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額で評価します。

残存期間1年以内の公社債等については、一部償却原価法による評価を適用することができます。

・マザーファンド

計算日における基準価額で評価します。

・投資信託証券（上場投資信託証券／不動産投資信託証券を除く。）

原則として、計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

・外貨建資産

原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値により円換算します。

・外国為替予約取引

原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値により評価します。

・市場デリバティブ取引

原則として、金融商品取引所が発表する計算日の清算値段等で評価します。

②基準価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

③基準価額の照会方法

基準価額は、販売会社にてご確認いただけます。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

（2）【保管】

該当事項はありません。

（3）【信託期間】

2025年11月5日まで（2005年12月9日設定）

ただし、後記「ファンドの償還条件等」の規定によりファンドを償還させることがあります。また、委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受

託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

（４）【計算期間】

毎月６日から翌月５日まで

ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

なお、最終計算期間の終了日は、ファンドの信託期間の終了日とします。

（５）【その他】

①ファンドの償還条件等

委託会社は、以下の場合には、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、ファンドを償還させることができます。（任意償還）

- ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合
- ・信託期間中において、ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき

このほか、監督官庁よりファンドの償還の命令を受けたとき、委託会社の登録取消・解散・業務廃止のときは、原則として、ファンドを償還させます。

委託会社は、ファンドを償還しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。

②信託約款の変更

委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することができます。委託会社は、信託約款を変更しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。

委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記の手続きにしたがいます。

③ファンドの償還等に関する開示方法

委託会社は、ファンドの任意償還または信託約款の変更のうち重大な内容の変更を行おうとする場合、あらかじめその旨およびその内容を公告し、かつ、原則としてこれらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。この公告および書面には、原則として、受益者で異議のあるものは一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。

④異議申立ておよび反対者の買取請求権

受益者は、委託会社がファンドの任意償還または信託約款について重大な内容の変更を行おうとする場合、原則として、一定の期間（１ヵ月以上）内に委託会社に対して異議を述べるすることができます。異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。なお、一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の２分の１を超えるときは、ファンドの償還または信託約款の変更を行いません。その場合、償還しない旨または信託約款を変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、原則として、これらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。

⑤関係法人との契約の更改

委託会社と販売会社との間で締結された「投資信託受益権の取扱に関する契約」の契約期間は、契約締結日から１年とします。ただし双方から契約満了日の３ヵ月前までに別段の意思表示のないときは、さらに１年間延長するものとし、その後も同様とします。

⑥運用報告書

委託会社は、毎年5月および11月に終了する計算期間の末日および償還時に、交付運用報告書を作成し、原則として受益者に交付します。なお、信託約款の内容に委託会社が重要と判断した変更、ファンドの任意償還等があった場合は、その内容を交付運用報告書に記載します。

⑦委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

⑧受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はファンドを償還させます。

⑨信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について再信託受託会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

⑩公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.am.mufg.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。

(1) 収益分配金に対する受領権

受益者は、収益分配金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

①分配金受取コース（一般コース）

収益分配金は、税金を差引いた後、毎計算期間の終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

②分配金再投資コース（累積投資コース）

収益分配金は、税金を差引いた後、「累積投資契約」に基づいて、決算日の基準価額により自動的に無手数料で全額再投資されます。

(2) 償還金に対する受領権

受益者は、償還金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

(3) 換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、換金（解約）請求する権利を有します。

くわしくは「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」を参照してください。

第3【ファンドの経理状況】

- 1 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2 毎月決算ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 3 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期（2023年5月9日から2023年11月6日まで）の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	前期 [2023年 5月 8日現在]	当期 [2023年11月 6日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	9,302,090	9,582,042
親投資信託受益証券	3,458,956,908	3,469,352,738
未収入金	11,195,000	5,469,174
流動資産合計	3,479,453,998	3,484,403,954
資産合計	3,479,453,998	3,484,403,954
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	5,385,732	5,153,701
未払解約金	5,226,062	406
未払受託者報酬	204,050	197,300
未払委託者報酬	3,536,846	3,419,843
未払利息	23	3
その他未払費用	14,273	13,805
流動負債合計	14,366,986	8,785,058
負債合計	14,366,986	8,785,058
純資産の部		
元本等		
元本	3,590,488,630	3,435,800,967
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△125,401,618	39,817,929
（分配準備積立金）	285,546,443	286,467,071
元本等合計	3,465,087,012	3,475,618,896
純資産合計	3,465,087,012	3,475,618,896
負債純資産合計	3,479,453,998	3,484,403,954

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前期 自 2022年11月 8日 至 2023年 5月 8日	当期 自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日
営業収益		
受取利息	42	58
有価証券売買等損益	47,877,710	215,053,135
営業収益合計	47,877,752	215,053,193
営業費用		
支払利息	1,592	2,315
受託者報酬	1,135,092	1,137,748
委託者報酬	19,674,922	19,720,875
その他費用	79,392	79,586
営業費用合計	20,890,998	20,940,524
営業利益又は営業損失（△）	26,986,754	194,112,669
経常利益又は経常損失（△）	26,986,754	194,112,669
当期純利益又は当期純損失（△）	26,986,754	194,112,669
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	226,537	360,993
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△125,200,065	△125,401,618
剰余金増加額又は欠損金減少額	6,254,609	3,349,096
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	6,254,609	3,327,479
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	21,617
剰余金減少額又は欠損金増加額	471,749	456,931
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	325,697
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	471,749	131,234
分配金	32,744,630	31,424,294
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△125,401,618	39,817,929

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	ファンドの特定期間 当ファンドは、原則として毎年5月5日および11月5日を特定期間の末日としておりますが、前特定期間および当特定期間においては当該日が休業日のため、当特定期間は2023年 5月 9日から2023年11月 6日までとなっております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌特定期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	前期 [2023年 5月 8日現在]	当期 [2023年11月 6日現在]
1. 期首元本額	3,703,108,599円	3,590,488,630円
期中追加設定元本額	9,427,802円	8,435,418円
期中一部解約元本額	122,047,771円	163,123,081円
2. 元本の欠損		
純資産額が元本総額を下回っており、その差額であります。	125,401,618円	—円
3. 受益権の総数	3,590,488,630口	3,435,800,967口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期 自 2022年11月 8日 至 2023年 5月 8日	当期 自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日																																																												
1. 分配金の計算過程 第202期 2022年11月 8日 2022年12月 5日	1. 分配金の計算過程 第208期 2023年 5月 9日 2023年 6月 5日																																																												
<table><tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>2,407,451円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>66,408,175円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>286,531,689円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>355,347,315円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>3,679,692,421口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>965円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>15円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>5,519,538円</td></tr></table> 第203期 2022年12月 6日 2023年 1月 5日	項目			費用控除後の配当等収益額	A	2,407,451円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	66,408,175円	分配準備積立金額	D	286,531,689円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	355,347,315円	当ファンドの期末残存口数	F	3,679,692,421口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	965円	1万口当たり分配金額	H	15円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,519,538円	<table><tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>6,051,998円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>64,617,015円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>281,425,080円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>352,094,093円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>3,540,027,399口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>994円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>15円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>5,310,041円</td></tr></table> 第209期 2023年 6月 6日 2023年 7月 5日	項目			費用控除後の配当等収益額	A	6,051,998円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	64,617,015円	分配準備積立金額	D	281,425,080円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	352,094,093円	当ファンドの期末残存口数	F	3,540,027,399口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	994円	1万口当たり分配金額	H	15円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,310,041円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	2,407,451円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	66,408,175円																																																											
分配準備積立金額	D	286,531,689円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	355,347,315円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	3,679,692,421口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	965円																																																											
1万口当たり分配金額	H	15円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,519,538円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	6,051,998円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	64,617,015円																																																											
分配準備積立金額	D	281,425,080円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	352,094,093円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	3,540,027,399口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	994円																																																											
1万口当たり分配金額	H	15円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,310,041円																																																											
<table><tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>3,700,220円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>66,339,903円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>282,117,460円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>352,157,583円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>3,665,231,548口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>960円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>15円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>5,497,847円</td></tr></table> 第204期 2023年 1月 6日 2023年 2月 6日	項目			費用控除後の配当等収益額	A	3,700,220円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	66,339,903円	分配準備積立金額	D	282,117,460円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	352,157,583円	当ファンドの期末残存口数	F	3,665,231,548口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	960円	1万口当たり分配金額	H	15円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,497,847円	<table><tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>7,205,384円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>64,293,705円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>280,161,348円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>351,660,437円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>3,516,226,556口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>1,000円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>15円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>5,274,339円</td></tr></table> 第210期 2023年 7月 6日 2023年 8月 7日	項目			費用控除後の配当等収益額	A	7,205,384円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	64,293,705円	分配準備積立金額	D	280,161,348円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	351,660,437円	当ファンドの期末残存口数	F	3,516,226,556口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,000円	1万口当たり分配金額	H	15円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,274,339円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	3,700,220円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	66,339,903円																																																											
分配準備積立金額	D	282,117,460円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	352,157,583円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	3,665,231,548口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	960円																																																											
1万口当たり分配金額	H	15円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,497,847円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	7,205,384円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	64,293,705円																																																											
分配準備積立金額	D	280,161,348円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	351,660,437円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	3,516,226,556口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,000円																																																											
1万口当たり分配金額	H	15円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,274,339円																																																											
<table><tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>6,847,341円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>66,130,184円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>278,859,326円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>351,836,851円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>3,647,547,245口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>964円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>15円</td></tr></table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	6,847,341円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	66,130,184円	分配準備積立金額	D	278,859,326円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	351,836,851円	当ファンドの期末残存口数	F	3,647,547,245口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	964円	1万口当たり分配金額	H	15円	<table><tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>3,743,727円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>64,141,781円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>280,855,314円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>348,740,822円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>3,502,102,338口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>995円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>15円</td></tr></table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	3,743,727円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	64,141,781円	分配準備積立金額	D	280,855,314円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	348,740,822円	当ファンドの期末残存口数	F	3,502,102,338口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	995円	1万口当たり分配金額	H	15円						
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	6,847,341円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	66,130,184円																																																											
分配準備積立金額	D	278,859,326円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	351,836,851円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	3,647,547,245口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	964円																																																											
1万口当たり分配金額	H	15円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	3,743,727円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	64,141,781円																																																											
分配準備積立金額	D	280,855,314円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	348,740,822円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	3,502,102,338口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	995円																																																											
1万口当たり分配金額	H	15円																																																											

前期 自 2022年11月 8日 至 2023年 5月 8日			当期 自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日		
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,471,320円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,253,153円
第205期 2023年 2月 7日 2023年 3月 6日			第211期 2023年 8月 8日 2023年 9月 5日		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	6,344,627円	費用控除後の配当等収益額	A	9,712,638円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	65,874,797円	収益調整金額	C	63,961,776円
分配準備積立金額	D	278,591,091円	分配準備積立金額	D	277,985,391円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	350,810,515円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	351,659,805円
当ファンドの期末残存口数	F	3,627,508,286口	当ファンドの期末残存口数	F	3,486,360,679口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	967円	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,008円
1万口当たり分配金額	H	15円	1万口当たり分配金額	H	15円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,441,262円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,229,541円
第206期 2023年 3月 7日 2023年 4月 5日			第212期 2023年 9月 6日 2023年10月 5日		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	14,053,404円	費用控除後の配当等収益額	A	11,710,471円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	65,838,512円	収益調整金額	C	63,751,643円
分配準備積立金額	D	278,754,429円	分配準備積立金額	D	280,959,933円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	358,646,345円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	356,422,047円
当ファンドの期末残存口数	F	3,619,287,361口	当ファンドの期末残存口数	F	3,469,012,926口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	990円	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,027円
1万口当たり分配金額	H	15円	1万口当たり分配金額	H	15円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,428,931円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,203,519円
第207期 2023年 4月 6日 2023年 5月 8日			第213期 2023年10月 6日 2023年11月 6日		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	5,949,480円	費用控除後の配当等収益額	A	7,053,201円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	65,426,087円	収益調整金額	C	63,291,683円
分配準備積立金額	D	284,982,695円	分配準備積立金額	D	284,567,571円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	356,358,262円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	354,912,455円
当ファンドの期末残存口数	F	3,590,488,630口	当ファンドの期末残存口数	F	3,435,800,967口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	992円	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,032円
1万口当たり分配金額	H	15円	1万口当たり分配金額	H	15円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,385,732円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	5,153,701円

（金融商品に関する注記）
1 金融商品の状況に関する事項

区分	前期 自 2022年11月 8日 至 2023年 5月 8日	当期 自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	前期 [2023年 5月 8日現在]	当期 [2023年11月 6日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	前期 [2023年 5月 8日現在]	当期 [2023年11月 6日現在]
	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	85,349,431	109,156,492
合計	85,349,431	109,156,492

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前期 [2023年 5月 8日現在]	当期 [2023年11月 6日現在]
1口当たり純資産額	0.9651円	1.0116円
(1万口当たり純資産額)	(9,651円)	(10,116円)

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	高金利高格付債券マザーファンド	1,156,446,190	2,085,650,703	
	好配当日本株マザーファンド	247,690,175	699,898,127	
	Jリートマザーファンド2005	230,718,641	683,803,908	
合計		1,634,855,006	3,469,352,738	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドの主要投資対象の状況は以下の通りです。

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

高金利高格付債券マザーファンド

貸借対照表

(単位：円)	
[2023年11月 6日現在]	
資産の部	
流動資産	
預金	57,212,467
コール・ローン	7,536,141
国債証券	1,972,922,792
特殊債券	31,986,012
未収利息	15,618,410
前払費用	402,893
流動資産合計	2,085,678,715
資産合計	2,085,678,715
負債の部	
流動負債	
未払利息	2
流動負債合計	2
負債合計	2
純資産の部	
元本等	
元本	1,156,446,190
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	929,232,523
元本等合計	2,085,678,713
純資産合計	2,085,678,713
負債純資産合計	2,085,678,715

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

（重要な会計上の見積りに関する注記）

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

	[2023年11月 6日現在]
1. 期首	2023年 5月 9日
期首元本額	1,183,973,154円
期中追加設定元本額	11,702,824円
期中一部解約元本額	39,229,788円

	[2023年11月 6日現在]
元本の内訳※ 三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型） 合計	1,156,446,190円 1,156,446,190円
2. 受益権の総数	1,156,446,190口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。 ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2023年11月 6日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 （２）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 （３）上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[2023年11月 6日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	△54,267,823
特殊債券	△1,858,589
合計	△56,126,412

（注）当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	[2023年11月 6日現在]
1口当たり純資産額	1.8035円
(1万口当たり純資産額)	(18,035円)

附属明細表

第１ 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

通貨	種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
アメリカドル	国債証券	0.5 T-NOTE 270430	380,000.00	330,466.40	
		0.75 T-NOTE 260331	90,000.00	82,037.10	
		1.125 T-NOTE 310215	300,000.00	238,066.40	
		1.25 T-NOTE 280630	300,000.00	259,066.40	
		1.875 T-BOND 510215	180,000.00	99,991.40	
		2.75 T-NOTE 240215	90,000.00	89,329.73	
		2.875 T-BOND 520515	110,000.00	77,360.93	
		2.875 T-NOTE 320515	80,000.00	70,437.50	
		3.25 T-NOTE 270630	400,000.00	382,390.62	
		3.875 T-NOTE 271231	100,000.00	97,484.37	
		3.875 T-NOTE 330815	200,000.00	189,109.37	
		4.125 T-BOND 530815	100,000.00	89,843.75	
		4.25 T-NOTE 251015	350,000.00	345,966.79	
		4.5 T-BOND 380515	300,000.00	292,851.56	
アメリカドル合計			2,980,000.00	2,644,402.32 (395,787,695)	
カナダドル	国債証券	0.25 CAN GOVT 260301	590,000.00	538,694.85	
		0.5 CAN GOVT 301201	950,000.00	759,894.93	
		1 CAN GOVT 260901	300,000.00	275,515.68	
		2 CAN GOVT 320601	100,000.00	87,158.23	
		2 CAN GOVT 511201	230,000.00	165,589.33	
		3.5 CAN GOVT 250801	200,000.00	196,742.19	
		4 CAN GOVT 410601	350,000.00	363,272.20	
		5.75 CAN GOVT 290601	30,000.00	33,050.15	
カナダドル合計			2,750,000.00	2,419,917.56 (265,077,769)	
オーストラリアドル	国債証券	0.25 AUST GOVT 241121	170,000.00	162,761.38	
		0.5 AUST GOVT 260921	300,000.00	269,683.76	
		1 AUST GOVT 311121	100,000.00	75,808.52	
		1.5 AUST GOVT 310621	530,000.00	425,233.60	
		1.75 AUST GOVT 510621	470,000.00	239,992.29	
		2.5 AUST GOVT 300521	700,000.00	621,014.40	
		4.5 AUST GOVT 330421	800,000.00	787,880.73	
		4.75 AUST GOVT 270421	520,000.00	527,642.90	
	国債証券 小計		3,590,000.00	3,110,017.58 (303,226,714)	

	特殊債券	6.5 QUEENSLAND 330314	300,000.00	328,061.67	
	特殊債券 小計		300,000.00	328,061.67 (31,986,012)	
オーストラリアドル合計			3,890,000.00	3,438,079.25 (335,212,726)	
イギリス ポンド	国債証券	0.125 GILT 260130	100,000.00	91,273.94	
		0.5 GILT 290131	100,000.00	82,786.00	
		1.25 GILT 270722	100,000.00	90,095.00	
		1.25 GILT 510731	200,000.00	92,968.00	
		3.25 GILT 330131	200,000.00	184,203.92	
		4.25 GILT 320607	200,000.00	200,855.60	
		4.25 GILT 360307	100,000.00	97,922.00	
		4.25 GILT 461207	750,000.00	693,265.95	
		4.75 GILT 301207	100,000.00	103,712.20	
		6 GILT 281207	160,000.00	173,367.20	
イギリスポンド合計			2,010,000.00	1,810,449.81 (335,059,946)	
ニュー ジーラン ドドル	国債証券	0.5 NZ GOVT 260515	300,000.00	267,635.44	
		1.5 NZ GOVT 310515	800,000.00	618,186.01	
		1.75 NZ GOVT 410515	800,000.00	469,353.43	
		2.75 NZ GOVT 250415	600,000.00	578,155.87	
		2.75 NZ GOVT 370415	490,000.00	367,159.84	
		3 NZ GOVT 290420	1,200,000.00	1,081,912.04	
		3.5 NZ GOVT 330414	920,000.00	802,442.19	
		4.5 NZ GOVT 270415	380,000.00	373,349.47	
ニュージーランドドル合計			5,490,000.00	4,558,194.29 (408,642,118)	
ノル ウェーク ローネ	国債証券	1.25 NORWE GOVT 310917	1,000,000.00	831,715.00	
		1.375 NORWE GOVT 300819	2,900,000.00	2,494,650.76	
		1.75 NORWE GOVT 250313	3,300,000.00	3,200,229.78	
		1.75 NORWE GOVT 270217	3,850,000.00	3,605,910.00	
		1.75 NORWE GOVT 290906	3,000,000.00	2,691,060.00	
		2 NORWE GOVT 280426	2,800,000.00	2,600,988.32	
		2.125 NORWE GOVT 320518	4,700,000.00	4,142,128.80	
ノルウェークローネ合計			21,550,000.00	19,566,682.66 (265,128,550)	
合計				2,004,908,804 (2,004,908,804)	

(注1)通貨の種類ごとの小計／合計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入債券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
アメリカドル	国債証券 14銘柄	100.00%	19.74%
カナダドル	国債証券 8銘柄	100.00%	13.22%
オーストラリアドル	国債証券 8銘柄	90.46%	15.12%
	特殊債券 1銘柄	9.54%	1.60%
イギリスポンド	国債証券 10銘柄	100.00%	16.71%
ニュージーランドドル	国債証券 8銘柄	100.00%	20.38%
ノルウェークローネ	国債証券 7銘柄	100.00%	13.22%

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

好配当日本株マザーファンド

貸借対照表

(単位：円)

[2023年11月 6日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	8,595,516
株式	684,961,040
未収入金	5,211,321
未収配当金	9,655,960
流動資産合計	708,423,837
資産合計	708,423,837
負債の部	
流動負債	
未払金	4,958,595
未払解約金	3,576,985
未払利息	2
流動負債合計	8,535,582
負債合計	8,535,582
純資産の部	
元本等	
元本	247,690,175
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	452,198,080
元本等合計	699,888,255
純資産合計	699,888,255
負債純資産合計	708,423,837

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
--------------------	---

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	[2023年11月 6日現在]
1. 期首	2023年 5月 9日
期首元本額	303,294,974円
期中追加設定元本額	610,354円
期中一部解約元本額	56,215,153円
元本の内訳※	
三菱ＵＦＪ 3資産分散ファンド（毎月決算型）	247,690,175円
合計	247,690,175円
2. 受益権の総数	247,690,175口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2023年11月 6日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 （２）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 （３）上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[2023年11月 6日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
株式	131,169,003
合計	131,169,003

（注）当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	[2023年11月 6日現在]
1口当たり純資産額	2.8257円
（1万口当たり純資産額）	（28,257円）

附属明細表

第1 有価証券明細表
(1)株式

(単位：円)

	銘 柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
1605	I N P E X	1,200	2,170.00	2,604,000	
1926	ライト工業	1,000	1,943.00	1,943,000	
1928	積水ハウス	2,900	3,004.00	8,711,600	
5076	インフロニア・ホールディングス	7,500	1,550.50	11,628,750	
2503	麒麟ホールディングス	2,800	2,177.50	6,097,000	
3402	東レ	1,500	771.20	1,156,800	
4023	クレハ	200	9,090.00	1,818,000	
4041	日本曹達	1,700	5,470.00	9,299,000	
4046	大阪ソーダ	2,000	8,750.00	17,500,000	
4182	三菱瓦斯化学	2,900	2,083.00	6,040,700	
4188	三菱ケミカルグループ	14,400	968.40	13,944,960	
4202	ダイセル	4,500	1,516.50	6,824,250	
4205	日本ゼオン	300	1,264.00	379,200	
4502	武田薬品工業	5,000	4,131.00	20,655,000	
4887	サワイグループホールディングス	2,000	4,791.00	9,582,000	
5021	コスモエネルギーホールディングス	1,600	5,502.00	8,803,200	
5108	ブリヂストン	1,300	5,896.00	7,664,800	
5401	日本製鉄	5,800	3,250.00	18,850,000	
5711	三菱マテリアル	2,600	2,471.50	6,425,900	
5802	住友電気工業	1,000	1,801.50	1,801,500	
5805	SWC C	2,300	2,538.00	5,837,400	
5857	A R Eホールディングス	200	1,907.00	381,400	
5901	東洋製罐グループホールディングス	3,400	2,480.00	8,432,000	
5929	三和ホールディングス	5,700	2,203.00	12,557,100	
5988	パイオラックス	3,000	2,277.00	6,831,000	
6113	アマダ	7,900	1,510.50	11,932,950	
6361	荏原製作所	200	7,116.00	1,423,200	
6490	日本ピラー工業	800	4,085.00	3,268,000	
7011	三菱重工業	600	8,525.00	5,115,000	
6592	マブチモーター	100	4,594.00	459,400	
6622	ダイヘン	1,100	5,500.00	6,050,000	
6674	ジーエス・ユアサ コーポレーション	2,900	2,536.00	7,354,400	
6677	エスケーエレクトロニクス	600	2,868.00	1,720,800	
7752	リコー	2,400	1,255.50	3,013,200	
8035	東京エレクトロン	300	21,510.00	6,453,000	
6995	東海理化電機製作所	2,500	2,501.00	6,252,500	
7012	川崎重工業	2,500	3,453.00	8,632,500	
7202	いすゞ自動車	3,400	1,745.00	5,933,000	

7203	トヨタ自動車	18,700	2,846.00	53,220,200	
7246	プレス工業	10,000	644.00	6,440,000	
7261	マツダ	10,300	1,500.00	15,450,000	
7267	本田技研工業	5,400	1,621.00	8,753,400	
7731	ニコン	7,500	1,498.50	11,238,750	
7740	タムロン	1,600	4,195.00	6,712,000	
7974	任天堂	2,200	6,432.00	14,150,400	
9532	大阪瓦斯	2,300	2,877.00	6,617,100	
9069	センコーグループホールディングス	2,700	1,052.00	2,840,400	
9147	NIPPON EXPRESSホール ディン	300	7,676.00	2,302,800	
9101	日本郵船	1,600	3,594.00	5,750,400	
9301	三菱倉庫	1,700	4,240.00	7,208,000	
7518	ネットワンシステムズ	2,000	2,272.00	4,544,000	
7860	エイベックス	900	1,405.00	1,264,500	
9432	日本電信電話	164,800	176.90	29,153,120	
9434	ソフトバンク	9,500	1,699.50	16,145,250	
8001	伊藤忠商事	1,200	5,692.00	6,830,400	
8002	丸紅	6,900	2,336.00	16,118,400	
8015	豊田通商	1,200	8,960.00	10,752,000	
8058	三菱商事	4,700	6,998.00	32,890,600	
9934	因幡電機産業	100	3,260.00	326,000	
2685	アダストリア	1,400	3,210.00	4,494,000	
3086	J. フロント リテイリング	1,300	1,458.00	1,895,400	
8174	日本瓦斯	3,200	2,413.50	7,723,200	
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	37,100	1,269.50	47,098,450	
8308	りそなホールディングス	19,600	794.10	15,564,360	
8316	三井住友フィナンシャルグループ	1,700	7,340.00	12,478,000	
8367	南都銀行	300	2,690.00	807,000	
8473	SBIホールディングス	2,300	3,296.00	7,580,800	
8750	第一生命ホールディングス	5,800	3,192.00	18,513,600	
8766	東京海上ホールディングス	5,500	3,494.00	19,217,000	
8591	オリックス	3,700	2,711.00	10,030,700	
3231	野村不動産ホールディングス	2,400	3,667.00	8,800,800	
6178	日本郵政	3,600	1,335.00	4,806,000	
9744	メイテックグループホールディングス	1,400	2,762.50	3,867,500	
合 計		447,000		684,961,040	

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

Ｊリートマザーファンド２００５

貸借対照表

(単位：円)

[2023年11月 6日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	9,204,668
投資証券	668,912,000
未収入金	4,126,484
未収配当金	7,729,685
流動資産合計	689,972,837
資産合計	689,972,837
負債の部	
流動負債	
未払金	4,288,232
未払解約金	1,892,189
未払利息	2
流動負債合計	6,180,423
負債合計	6,180,423
純資産の部	
元本等	
元本	230,718,641
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	453,073,773
元本等合計	683,792,414
純資産合計	683,792,414
負債純資産合計	689,972,837

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
--------------------	---

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	[2023年11月 6日現在]
1. 期首	2023年 5月 9日
期首元本額	234,735,350円
期中追加設定元本額	4,416,875円
期中一部解約元本額	8,433,584円
元本の内訳※	
三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型）	230,718,641円
合計	230,718,641円
2. 受益権の総数	230,718,641口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、投資証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。

区分	自 2023年 5月 9日 至 2023年11月 6日
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2023年11月 6日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[2023年11月 6日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
投資証券	△23,522,123
合計	△23,522,123

(注)当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	[2023年11月 6日現在]
1口当たり純資産額	2.9638円
(1万口当たり純資産額)	(29,638円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
投資証券	エスコンジャパンリート投資法人	75	8,865,000	
	サンケイリアルエステート投資法人	170	15,691,000	
	S O S i L A物流リート投資法人	20	2,420,000	
	日本アコモデーションファンド投資法人	27	16,902,000	
	森ヒルズリート投資法人	40	5,712,000	
	産業ファンド投資法人	70	9,674,000	

アドバンス・レジデンス投資法人	58	19,459,000	
アクティビア・プロパティーズ投資法人	60	24,540,000	
G L P投資法人	210	29,379,000	
コンフォリア・レジデンシャル投資法人	24	7,728,000	
日本プロロジスリート投資法人	115	31,165,000	
星野リゾート・リート投資法人	5	3,030,000	
O n e リート投資法人	50	13,040,000	
イオンリート投資法人	55	7,975,000	
ヒューリックリート投資法人	55	8,618,500	
日本リート投資法人	20	6,950,000	
積水ハウス・リート投資法人	410	32,841,000	
野村不動産マスターファンド投資法人	180	30,708,000	
ラサールロジポート投資法人	95	14,297,500	
スターアジア不動産投資法人	220	12,716,000	
三井不動産ロジスティクスパーク投資法人	18	8,469,000	
三菱地所物流リート投資法人	55	21,120,000	
C R E ロジスティクスファンド投資法人	40	6,528,000	
ザイマックス・リート投資法人	50	5,870,000	
アドバンス・ロジスティクス投資法人	90	11,205,000	
日本ビルファンド投資法人	75	45,900,000	
ジャパンリアルエステイト投資法人	57	32,433,000	
日本都市ファンド投資法人	290	28,217,000	
オリックス不動産投資法人	115	20,355,000	
日本プライムリアルティ投資法人	35	12,390,000	
N T T 都市開発リート投資法人	40	5,208,000	
東急リアル・エステート投資法人	15	2,713,500	
ユナイテッド・アーバン投資法人	130	19,916,000	
森トラストリート投資法人	25	1,842,500	
インヴィンシブル投資法人	440	25,344,000	
フロンティア不動産投資法人	15	6,825,000	
平和不動産リート投資法人	20	2,868,000	
日本ロジスティクスファンド投資法人	35	10,013,500	
K D X 不動産投資法人	205	33,374,000	
いちごオフィスリート投資法人	70	5,971,000	
大和証券オフィス投資法人	10	6,640,000	
スターツプロシード投資法人	65	13,721,500	
大和ハウスリート投資法人	85	23,528,000	
ジャパン・ホテル・リート投資法人	120	8,136,000	
大和証券リビング投資法人	65	7,267,000	
ジャパンエクセレント投資法人	10	1,346,000	
合計	4,134	668,912,000	

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

２【ファンドの現況】

【三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型）】

【純資産額計算書】

2023年11月30日現在

(単位：円)

I 資産総額	3,518,182,277
II 負債総額	5,737,345
III 純資産総額（I－II）	3,512,444,932
IV 発行済口数	3,423,458,162口
V 1口当たり純資産価額（III／IV）	1.0260
（10,000口当たり）	（10,260）

(参考)

高金利高格付債券マザーファンド

純資産額計算書

2023年11月30日現在

(単位：円)

I 資産総額	2,120,192,109
II 負債総額	3,049,346
III 純資産総額（I－II）	2,117,142,763
IV 発行済口数	1,149,083,656口
V 1口当たり純資産価額（III／IV）	1.8425
（10,000口当たり）	（18,425）

好配当日本株マザーファンド

純資産額計算書

2023年11月30日現在

(単位：円)

I 資産総額	699,729,564
II 負債総額	1,006,333
III 純資産総額（I－II）	698,723,231
IV 発行済口数	246,840,775口
V 1口当たり純資産価額（III／IV）	2.8307
（10,000口当たり）	（28,307）

Jリートマザーファンド２００５

純資産額計算書

2023年11月30日現在

(単位：円)

I 資産総額	692,086,020
--------	-------------

Ⅱ 負債総額	2,319,800
Ⅲ 純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	689,766,220
Ⅳ 発行済口数	230,718,641口
Ⅴ 1口当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）	2.9896
（10,000口当たり）	（29,896）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（1）名義書換等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

（2）受益者等に対する特典

該当事項はありません。

（3）譲渡制限の内容

該当事項はありません。

（4）受益権の譲渡

- ①受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ②上記①の申請のある場合には、上記①の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- ③上記①の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（5）受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

（6）質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付け、解約代金および償還金の支払い等については、信託約款の規定による

ほか、民法その他の法令等に当たって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

（1）資本金の額等

2023年11月末現在、資本金は2,000百万円です。なお、発行可能株式総数は400,000株であり、211,581株を発行済です。最近5年間ににおける資本金の額の増減はありません。

（2）委託会社の機構

・会社の意思決定機構

業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務の執行を監督する機関として、取締役会を設置します。取締役の選任は、総株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席する株主総会にてその議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。また、取締役会で決定した基本方針に基づき、経営管理全般に関する執行方針その他重要な事項を協議・決定する機関として、経営会議を設置します。

・投資運用の意思決定機構

①投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

②運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、①で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

③運用計画の決定

②で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

④ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

⑤運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

⑥管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署は、（a）運用に関するパフォーマンス測定・分析、意図した運用成果が得られていない場合にはその原因の分析のほか、（b）リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、（a）についてはファンド管理委員会における審議を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、（b）についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

⑦ファンドに係る法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に係る法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

⑧運用・管理に関する監督

内部監査担当部署は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）等を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務を行っています。

2023年11月30日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除きます。）

商品分類	本 数 (本)	純資産総額 (百万円)
追加型株式投資信託	848	28,063,823
追加型公社債投資信託	16	1,558,226
単位型株式投資信託	100	442,223
単位型公社債投資信託	49	94,773
合 計	1,013	30,159,044

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しておりますので、表中の個々の数字の合計と合計欄の数字とは一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

（1）財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

委託会社である三菱UFJアセットマネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）」（以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成19年内閣府令第52号）」に基づき作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和52年大蔵省令第38号）」（以下「中間財務諸表等規則」という。）第38条及び第57条の規定により、中間財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」に基づき作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表に掲載している金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

（2）監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第38期事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第39期事業年度に係る中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

（1）【貸借対照表】

（単位：千円）

	第37期 (2022年3月31日現在)		第38期 (2023年3月31日現在)	
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	※2	51,593,362	※2	51,733,041
有価証券		293,326		1,579,691
前払費用		645,109		770,747
未収入金		61,092		81,854
未収委託者報酬		15,750,264		16,753,855
未収収益	※2	783,790	※2	688,142
金銭の信託		8,401,300		10,400,000
その他		295,584		745,576
流動資産合計		77,823,830		82,752,908
固定資産				
有形固定資産				
建物	※1	391,042	※1	181,551
器具備品	※1	1,079,023	※1	730,357
土地		628,433		628,433
建設仮勘定		-		1,111,177
有形固定資産合計		2,098,499		2,651,520
無形固定資産				
電話加入権		15,822		15,822
ソフトウェア		4,381,293		4,183,644
ソフトウェア仮勘定		1,581,652		1,907,739
無形固定資産合計		5,978,768		6,107,206
投資その他の資産				
投資有価証券		16,803,642		12,022,365
関係会社株式		159,536		159,536
投資不動産	※1	810,684	※1	807,066
長期差入保証金		524,244		689,492
前払年金費用		189,708		118,832
繰延税金資産		982,406		1,675,132
その他		45,230		45,230
貸倒引当金		△23,600		△23,600
投資その他の資産合計		19,491,852		15,494,056
固定資産合計		27,569,120		24,252,782
資産合計		105,392,950		107,005,691

(単位：千円)

	第37期 (2022年3月31日現在)		第38期 (2023年3月31日現在)	
(負債の部)				
流動負債				
預り金		565,222		507,559
未払金				
未払収益分配金		197,334		114,094
未払償還金		7,418		7,418
未払手数料	※2	6,423,139	※2	6,139,595
その他未払金	※2	4,565,457	※2	955,697
未払費用	※2	4,328,968	※2	5,778,896

未払消費税等	1,112,923	439,657
未払法人税等	769,692	2,375,281
賞与引当金	942,287	849,840
役員賞与引当金	149,028	154,872
その他	5,517	5,517
流動負債合計	19,066,990	17,328,431
固定負債		
長期未払金	10,800	-
退職給付引当金	1,246,300	1,333,882
役員退職慰労引当金	117,938	75,667
時効後支払損引当金	250,214	254,296
固定負債合計	1,625,252	1,663,846
負債合計	20,692,243	18,992,277
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	2,000,131	2,000,131
資本剰余金		
資本準備金	3,572,096	3,572,096
その他資本剰余金	41,160,616	41,160,616
資本剰余金合計	44,732,712	44,732,712
利益剰余金		
利益準備金	342,589	342,589
その他利益剰余金		
別途積立金	6,998,000	6,998,000
繰越利益剰余金	29,000,498	33,267,700
利益剰余金合計	36,341,088	40,608,289
株主資本合計	83,073,932	87,341,133

(単位：千円)

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,626,775	672,279
評価・換算差額等合計	1,626,775	672,279
純資産合計	84,700,707	88,013,413
負債純資産合計	105,392,950	107,005,691

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	79,977,953	84,121,445
投資顧問料	2,711,169	2,750,601

その他営業収益		13,459		10,412
営業収益合計		82,702,582		86,882,459
営業費用				
支払手数料	※2	31,644,834	※2	31,461,274
広告宣伝費		720,785		798,894
公告費		500		375
調査費				
調査費		2,430,158		2,849,042
委託調査費		14,557,009		19,236,505
事務委託費		1,450,062		1,751,807
営業雑経費				
通信費		138,868		113,480
印刷費		379,428		367,379
協会費		49,590		58,128
諸会費		17,729		18,447
事務機器関連費		2,172,978		2,238,382
その他営業雑経費		649		-
営業費用合計		53,562,596		58,893,717
一般管理費				
給料				
役員報酬		414,260		416,461
給料・手当		6,496,233		6,565,766
賞与引当金繰入		942,287		849,840
役員賞与引当金繰入		149,028		154,872
福利厚生費		1,282,310		1,279,885
交際費		4,874		8,942
旅費交通費		21,698		75,274
租税公課		430,233		403,955
不動産賃借料		724,961		719,707
退職給付費用		494,615		388,176
固定資産減価償却費		2,249,287		2,418,341
諸経費		379,054		444,313
一般管理費合計		13,588,846		13,725,534
営業利益		15,551,139		14,263,207

(単位：千円)

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業外収益		
受取配当金	243,133	47,353
受取利息	※2 7,408	※2 10,279
投資有価証券償還益	1,089,101	609,102
収益分配金等時効完成分	137,485	94,351
受取賃貸料	※2 65,808	※2 65,808
その他	36,211	36,894
営業外収益合計	1,579,148	863,788
営業外費用		

投資有価証券償還損		3,074		32,995
時効後支払損引当金繰入		16,548		31,951
事務過誤費		76,076		2,680
賃貸関連費用		15,780		14,262
その他		7,585		32,394
営業外費用合計		119,066		114,284
経常利益		17,011,221		15,012,711
特別利益				
投資有価証券売却益		605,706		387,113
特別利益合計		605,706		387,113
特別損失				
投資有価証券売却損		28,188		15,828
投資有価証券評価損		36,558		104,554
固定資産除却損	※1	13,094	※1	32,791
減損損失		-	※3	315,350
特別損失合計		77,840		468,524
税引前当期純利益		17,539,087		14,931,300
法人税、住民税及び事業税	※2	5,366,608	※2	4,860,444
法人税等調整額		22,446		△271,471
法人税等合計		5,389,054		4,588,973
当期純利益		12,150,032		10,342,327

(3) 【株主資本等変動計算書】

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712
会計方針の変更による累積的影響額				
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712

					株主資本合計
	利益剰余金			利益剰余金 合計	
	利益 準備金	その他利益剰余金			
		別途 積立金	繰越利益 剰余金		

当期首残高	342,589	6,998,000	26,951,289	34,291,879	81,024,723
会計方針の変更による累積的影響額			475,687	475,687	475,687
会計方針の変更を反映した当期首残高	342,589	6,998,000	27,426,976	34,767,566	81,500,410
当期変動額					
剰余金の配当			△10,576,511	△10,576,511	△10,576,511
当期純利益			12,150,032	12,150,032	12,150,032
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	1,573,521	1,573,521	1,573,521
当期末残高	342,589	6,998,000	29,000,498	36,341,088	83,073,932

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,301,606	2,301,606	83,326,329
会計方針の変更による累積的影響額			475,687
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,301,606	2,301,606	83,802,017
当期変動額			
剰余金の配当			△10,576,511
当期純利益			12,150,032
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△674,831	△674,831	△674,831
当期変動額合計	△674,831	△674,831	898,690
当期末残高	1,626,775	1,626,775	84,700,707

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712

	利益剰余金		
		その他利益剰余金	

	利益 準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	株主資本合計
当期首残高	342,589	6,998,000	29,000,498	36,341,088	83,073,932
当期変動額					
剰余金の配当			△6,075,125	△6,075,125	△6,075,125
当期純利益			10,342,327	10,342,327	10,342,327
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	4,267,201	4,267,201	4,267,201
当期末残高	342,589	6,998,000	33,267,700	40,608,289	87,341,133

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,626,775	1,626,775	84,700,707
当期変動額			
剰余金の配当			△6,075,125
当期純利益			10,342,327
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△954,495	△954,495	△954,495
当期変動額合計	△954,495	△954,495	3,312,705
当期末残高	672,279	672,279	88,013,413

[注記事項]

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	2年～20年
投資不動産	5年～47年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(6) 時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

6. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 委託者報酬

投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年2回受領しております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2) 投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年4回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

7. その他財務諸表作成のための基礎となる事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

（会計方針の変更）

時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、時価算定会計基準適用指針の適用による、財務諸表への影響はありません。

（貸借対照表関係）

※1. 有形固定資産及び投資不動産の減価償却累計額

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
建物	805,250千円	1,006,606千円

器具備品	2,054,366千円	1,985,072千円
投資不動産	157,995千円	163,978千円

※2.関係会社に対する主な資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
預金	43,782,913千円	40,165,058千円
未収収益	13,741千円	15,046千円
未払手数料	836,105千円	790,279千円
その他未払金	3,887,520千円	77,007千円
未払費用	337,847千円	277,358千円

(損益計算書関係)

※1.固定資産除却損の内訳

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物	2,599千円	1,047千円
器具備品	10,495千円	29,762千円
ソフトウェア	-	1,981千円
計	13,094千円	32,791千円

※2.関係会社に対する主な取引

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
支払手数料	5,153,589千円	4,893,312千円
受取利息	7,377千円	10,236千円
受取賃貸料	65,808千円	68,168千円
法人税、住民税及び事業税	4,062,765千円	3,947,200千円

※3.減損損失

当社は、以下のとおり減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
東京都千代田区（本社）	ホームページ	ソフトウェア	315,350千円

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、事業用資産に区別はなく、全社を1つのグルーピングとしております。

翌期において、ホームページのリニューアルを予定しており、現行のホームページについて将来の利用終了が見込まれるため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額として使用価値を用いておりますが、割引率については使用見込期間が短いため考慮していません。

(株主資本等変動計算書関係)

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1.発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
--	-------------------	-------------------	-------------------	------------------

発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2021年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

①	配当金の総額	10,576,511千円
②	1株当たり配当額	49,988円
③	基準日	2021年3月31日
④	効力発生日	2021年6月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2022年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

①	配当金の総額	6,075,125千円
②	配当の原資	利益剰余金
③	1株当たり配当額	28,713円
④	基準日	2022年3月31日
⑤	効力発生日	2022年6月29日

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2022年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

①	配当金の総額	6,075,125千円
②	1株当たり配当額	28,713円
③	基準日	2022年3月31日
④	効力発生日	2022年6月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2023年6月28日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

①	配当金の総額	5,171,039千円
②	配当の原資	利益剰余金
③	1株当たり配当額	24,440円
④	基準日	2023年3月31日
⑤	効力発生日	2023年6月29日

(リース取引関係)

〈借主側〉

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
1年内	709,808千円	962,809千円
1年超	414,054千円	1,532,728千円
合計	1,123,863千円	2,495,537千円

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については銀行預金、金銭の信託（合同運用指定金銭信託）で運用し、金融機関からの資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主として投資信託であり、価格変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

内部管理規程に従って月次でリスク資本を認識し、経営会議に報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

第37期(2022年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 有価証券	293,326	293,326	—
(2) 金銭の信託	8,401,300	8,401,300	—
(3) 投資有価証券	16,772,282	16,772,282	—
資産計	25,466,909	25,466,909	—

(注1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 市場価格のない株式等

非上場株式（前事業年度の貸借対照表計上額31,360千円）は、市場価格がないため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。また、関連会社株式（前事業年度の貸借対照表計上額159,536千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(注4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第37期(2022年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	51,593,362	—	—	—
金銭の信託	8,401,300	—	—	—
未収委託者報酬	15,750,264	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	293,326	6,911,464	3,695,585	—
合計	76,038,253	6,911,464	3,695,585	—

第38期(2023年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 有価証券	1,579,691	1,579,691	—
(2) 金銭の信託	10,400,000	10,400,000	—
(3) 投資有価証券	12,022,365	12,022,365	—
資産計	24,002,056	24,002,056	—

(注1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 市場価格のない株式等

関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額159,536千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(注4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第38期(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	51,733,041	—	—	—
金銭の信託	10,400,000	—	—	—
未収委託者報酬	16,753,855	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	1,579,691	4,859,714	1,433,213	—
合計	80,466,587	4,859,714	1,433,213	—

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

第37期(2022年3月31日現在)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託	—	8,401,300	—	8,401,300
資産計	—	8,401,300	—	8,401,300

※財務諸表等規則附則（2021年9月24日内閣府令第9号）に基づく経過措置を適用した投資信託（貸借対照表計上額 有価証券 293,326千円、投資有価証券16,772,282千円）は、表には含めておりません。

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

第38期(2023年3月31日現在)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	—	1,579,691	—	1,579,691
金銭の信託	—	10,400,000	—	10,400,000
投資有価証券	1,794,704	10,227,661	—	12,022,365
資産計	1,794,704	22,207,352	—	24,002,056

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF（上場投資信託）は相場価格を用いて評価しております。ETFは活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

ETF（上場投資信託）以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

1.子会社株式及び関連会社株式

第37期（2022年3月31日現在）及び第38期（2023年3月31日現在）

関連会社株式（貸借対照表計上額は159,536千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

2.その他有価証券

第37期(2022年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額（千円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	19,193,250	16,560,340	2,632,910
	小計	19,193,250	16,560,340	2,632,910
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	6,273,658	6,561,836	△288,177
	小計	6,273,658	6,561,836	△288,177
合計		25,466,909	23,122,176	2,344,732

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は8,401,300千円、取得原価は8,400,000千円）を含めております。

非上場株式（貸借対照表計上額は31,360千円）は、市場価格がないため、含めておりません。

第38期(2023年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額（千円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	8,983,713	7,558,314	1,425,399
	小計	8,983,713	7,558,314	1,425,399
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	15,018,343	15,474,760	△456,417
	小計	15,018,343	15,474,760	△456,417
合計		24,002,056	23,033,074	968,982

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は10,400,000千円、取得原価は10,400,000千円）を含めております。

3.売却したその他有価証券

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
株式	—	—	—
債券	—	—	—
その他	4,164,921	605,706	28,188
合計	4,164,921	605,706	28,188

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
株式	17,240	—	14,120
債券	—	—	—
その他	1,551,405	387,113	1,708
合計	1,568,645	387,113	15,828

4.減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について36,558千円（その他有価証券のその他36,558千円）減損処理を行っております。

当事業年度において、有価証券について104,554千円（その他有価証券のその他104,554千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

（退職給付関係）

1.採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2.確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,729,235 千円	3,723,521 千円
勤務費用	198,457	196,190
利息費用	21,549	25,925
数理計算上の差異の発生額	△46,069	△186,130
退職給付の支払額	△179,650	△176,727
過去勤務費用の発生額	—	—
退職給付債務の期末残高	3,723,521	3,582,778

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
年金資産の期首残高	2,649,846 千円	2,583,927 千円
期待運用収益	47,588	46,453
数理計算上の差異の発生額	1,824	△103,934
事業主からの拠出額	—	—
退職給付の支払額	△115,331	△100,694
年金資産の期末残高	2,583,927	2,425,752

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
積立型制度の退職給付債務	2,675,015 千円	2,468,195 千円
年金資産	△2,583,927	△2,425,752

	91,087	42,442
非積立型制度の退職給付債務	1,048,506	1,114,583
未積立退職給付債務	1,139,593	1,157,025
未認識数理計算上の差異	205,679	281,343
未認識過去勤務費用	△288,681	△223,319
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,056,591	1,215,049
退職給付引当金	1,246,300	1,333,882
前払年金費用	△189,708	△118,832
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,056,591	1,215,049

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	198,457 千円	196,190 千円
利息費用	21,549	25,925
期待運用収益	△47,588	△46,453
数理計算上の差異の費用処理額	△3,547	△6,532
過去勤務費用の費用処理額	65,361	65,361
その他	109,013	1,600
確定給付制度に係る退職給付費用	343,245	236,091

(注) 「その他」は受入出向者に係る出向元への退職給付費用負担額及び退職金です。

(5)年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
債券	62.0 %	63.6 %
株式	36.3	34.2
その他	1.7	2.2
合計	100	100

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
割引率	0.078～0.72%	0.066～1.13%
長期期待運用収益率	1.5～1.8%	1.5～1.8%

3.確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度151,370千円、当事業年度152,084千円であります。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
繰延税金資産		
減損損失	410,082千円	499,742千円
投資有価証券評価損	65,490	47,876
未払事業税	165,702	169,997
賞与引当金	288,528	260,221
役員賞与引当金	25,799	29,828
役員退職慰労引当金	36,112	23,169
退職給付引当金	381,617	408,434
減価償却超過額	145,316	227,100
差入保証金	-	52,869
長期差入保証金	52,869	-
時効後支払損引当金	76,615	77,865
連結納税適用による時価評価	35,311	35,311
その他	76,257	177,003
繰延税金資産 小計	1,759,702	2,009,420
評価性引当額	-	-
繰延税金資産 合計	1,759,702	2,009,420
繰延税金負債		
前払年金費用	△58,088	△36,386
連結納税適用による時価評価	△1,149	△1,098
その他有価証券評価差額金	△717,957	△296,702
その他	△101	△101
繰延税金負債 合計	△777,296	△334,288
繰延税金資産の純額	982,406	1,675,132

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

第37期（2022年3月31日現在）及び第38期（2023年3月31日現在）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度から、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

（収益認識関係）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「（重要な会計方針）の6.収益および費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）及び第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第37期（自2021年4月1日 至 2022年3月31日）及び第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1.製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3.主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連当事者情報)

1.関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注5)	科目	期末残高 (注5)
親会社	㈱三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税	連結納税に 伴う支払 (注1)	4,062,765 千円	その他未払金	3,887,520 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行㈱	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2)	5,153,589 千円	未払手数料	836,105 千円
						投資の助言 役員の兼任	投資助言料 (注3)	499,388 千円	未払費用	272,264 千円

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注5)	科目	期末残高 (注5)
----	--------	-----	-----	-------	------------------------	---------------	-------	--------------	----	--------------

親会社	㈱三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税等	連結納税等に 伴う支払 (注4)	3,947,200 千円	その他未払金	77,007 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行(㈱)	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2)	4,893,312 千円	未払手数料	790,279 千円
						投資の助言 役員の兼任	投資助言料 (注3)	463,416 千円	未払費用	253,093 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 連結納税制度に基づく連結法人税の支払予定額であります。
2. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。
3. 投資助言料については、市場実勢を勘案して決定しております。
4. 連結納税制度及びグループ通算制度に基づく法人税の支払予定額であります。
5. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

(2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注2)	科目	期末残高 (注2)
同一の親会社を持つ会社	㈱三菱UFJ 銀行	東京都 千代田 区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料 の支払 (注1)	4,097,951 千円	未払手数料	838,058 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJ モルガン・ スタンレー 証券(㈱)	東京都 千代田 区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料 の支払 (注1)	7,025,984 千円	未払手数料	1,319,958 千円

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注2)	科目	期末残高 (注2)
----	------------	-----	-----	-----------	----------------------------	---------------	-------	--------------	----	--------------

同一の親会社を持つ会社	㈱三菱UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払（注1）	4,052,979 千円	未払手数料	868,785 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払（注1）	6,661,991 千円	未払手数料	1,218,051 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注）1．投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。

2．上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

2.親会社に関する注記

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場）

三菱UFJ信託銀行株式会社（非上場）

（1株当たり情報）

	第37期 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）	第38期 （自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
1株当たり純資産額	400,322.84円	415,979.76円
1株当たり当期純利益金額	57,424.97円	48,881.17円

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第37期 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）	第38期 （自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
当期純利益金額（千円）	12,150,032	10,342,327
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	12,150,032	10,342,327
普通株式の期中平均株式数（株）	211,581	211,581

中間財務諸表

(1)中間貸借対照表

（単位：千円）

第39期中間会計期間
（2023年9月30日現在）

（資産の部）
流動資産

現金及び預金		49,727,641
有価証券		1,621,227
前払費用		710,443
未収入金		93,528
未収委託者報酬		19,282,859
未収収益		770,875
金銭の信託		10,401,000
その他		740,886
流動資産合計		83,348,451
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1	2,546,133
器具備品	※1	1,676,631
土地		628,433
建設仮勘定		10,560
有形固定資産合計		4,861,758
無形固定資産		
電話加入権		15,822
ソフトウェア		4,917,655
ソフトウェア仮勘定		1,357,259
無形固定資産合計		6,290,737
投資その他の資産		
投資有価証券		14,016,994
関係会社株式		159,536
投資不動産	※1	1,580,210
長期差入保証金		689,627
前払年金費用		83,203
繰延税金資産		1,274,071
その他		45,230
貸倒引当金		△23,600
投資その他の資産合計		17,825,273
固定資産合計		28,977,769
資産合計		112,326,220

(単位：千円)

第39期中間会計期間
(2023年9月30日現在)

(負債の部)		
流動負債		
預り金		492,861
未払金		
未払収益分配金		105,556
未払償還金		44,768
未払手数料		6,929,093
その他未払金		3,313,588
未払費用		6,935,916
未払消費税等	※2	319,737
未払法人税等		2,205,065
賞与引当金		899,167
役員賞与引当金		78,660
その他		5,517
流動負債合計		21,329,934
固定負債		
退職給付引当金		1,375,952

役員退職慰労引当金	32,510
時効後支払損引当金	252,955
資産除去債務	704,072
固定負債合計	2,365,490
負債合計	23,695,424

(純資産の部)

株主資本

資本金	2,000,131
資本剰余金	
資本準備金	3,572,096
その他資本剰余金	41,160,616
資本剰余金合計	44,732,712
利益剰余金	
利益準備金	342,589
その他利益剰余金	
別途積立金	6,998,000
繰越利益剰余金	33,502,194
利益剰余金合計	40,842,784
株主資本合計	87,575,628

(単位：千円)

第39期中間会計期間
(2023年9月30日現在)

評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	1,055,167
評価・換算差額等合計	1,055,167
純資産合計	88,630,795
負債純資産合計	112,326,220

(2)中間損益計算書

(単位：千円)

第39期中間会計期間
(自 2023年4月1日
至 2023年9月30日)

営業収益	
委託者報酬	47,550,495
投資顧問料	1,407,644
その他営業収益	10,158
営業収益合計	48,968,298
営業費用	
支払手数料	16,737,084
広告宣伝費	208,241
公告費	892
調査費	
調査費	1,594,100
委託調査費	12,907,263
事務委託費	947,553
営業雑経費	
通信費	53,048
印刷費	194,402
協会費	33,149
諸会費	9,640
事務機器関連費	1,212,110
その他営業雑経費	5,384

営業費用合計		33,902,872
一般管理費		
給料		
役員報酬		190,163
給料・手当		2,957,056
賞与引当金繰入		899,167
役員賞与引当金繰入		78,660
福利厚生費		645,394
交際費		4,144
旅費交通費		46,547
租税公課		204,887
不動産賃借料		390,491
退職給付費用		188,933
固定資産減価償却費	※1	1,169,259
諸経費		275,931
一般管理費合計		7,050,636
営業利益		8,014,788

(単位：千円)

第39期中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		
営業外収益		
受取配当金		27,966
受取利息		6,353
投資有価証券償還益		19,971
収益分配金等時効完成分		15,896
受取賃貸料		36,751
その他		20,823
営業外収益合計		127,762
営業外費用		
投資有価証券償却損		53,716
時効後支払損引当金繰入		1,347
事務過誤費		10,736
賃貸関連費用	※1	16,188
その他		3,902
営業外費用合計		85,890
経常利益		8,056,659
特別利益		
投資有価証券売却益		132,206
固定資産売却益		1,021
特別利益合計		133,228
特別損失		
投資有価証券売却損		30,309
投資有価証券評価損		28,130
固定資産除却損		20,162
固定資産売却損		65,427
その他特別損失		289,389
特別損失合計		433,419
税引前中間純利益		7,756,468
法人税、住民税及び事業税		2,118,856
法人税等調整額		232,077
法人税等合計		2,350,934
中間純利益		5,405,533

(3)中間株主資本等変動計算書

第39期中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	—	—
当中間期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712

	利益剰余金				株主資本合計
	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
別途 積立金		繰越利益 剰余金			
当期首残高	342,589	6,998,000	33,267,700	40,608,289	87,341,133
当中間期変動額					
剰余金の配当			△5,171,039	△5,171,039	△5,171,039
中間純利益			5,405,533	5,405,533	5,405,533
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	—	234,494	234,494	234,494
当中間期末残高	342,589	6,998,000	33,502,194	40,842,784	87,575,628

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	672,279	672,279	88,013,413
当中間期変動額			
剰余金の配当			△5,171,039
中間純利益			5,405,533
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	382,887	382,887	382,887
当中間期変動額合計	382,887	382,887	617,382
当中間期末残高	1,055,167	1,055,167	88,630,795

[重要な会計方針]

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。
市場価格のない株式等
移動平均法による原価法を採用しております。

2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法
時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	2年～20年
投資不動産	3年～50年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

(6) 時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

5. 収益および費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 委託者報酬

投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年2回受領しております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2) 投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年4回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. その他中間財務諸表作成のための重要な事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

[注記事項]

(中間貸借対照表関係)

※1 減価償却累計額

	第39期中間会計期間 (2023年9月30日現在)
建物	407,329千円
器具備品	1,336,738千円
投資不動産	170,993千円

※2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

※1 減価償却実施額

	第39期中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
有形固定資産	225,710千円
無形固定資産	943,548千円
投資不動産	7,015千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

第39期中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

2023年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

①	配当金の総額	5,171,039千円
②	配当の原資	利益剰余金
③	1株当たり配当額	24,440円
④	基準日	2023年3月31日
⑤	効力発生日	2023年6月29日

(リース取引関係)

第39期中間会計期間(2023年9月30日現在)

〈借主側〉

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	740,363千円
1年超	1,192,121千円
合 計	1,932,485千円

（金融商品関係）

第39期中間会計期間(2023年9月30日現在)

1. 金融商品の時価等に関する事項

2023年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

	中間貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 有価証券	1,621,227	1,621,227	—
(2) 金銭の信託	10,401,000	10,401,000	—
(3) 投資有価証券	14,016,994	14,016,994	—
資産計	26,039,221	26,039,221	

（注1）「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注2）市場価格のない株式等

関連会社株式（中間貸借対照表計上額 159,536千円）は、市場価格がないため、記載していません。

（注3）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって中間貸借対照表計上額とする金融資産

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	—	1,621,227	—	1,621,227
金銭の信託	—	10,401,000	—	10,401,000
投資有価証券	2,257,164	11,759,829	—	14,016,994
資産計	2,257,164	23,782,057	—	26,039,221

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF（上場投資信託）は相場価格を用いて評価しております。ETFは活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

ETF（上場投資信託）以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

第39期中間会計期間（2023年9月30日現在）

1. 子会社及び関連会社株式

関連会社株式（中間貸借対照表計上額 159,536千円）は、市場価格がないため、記載していません。

2. その他有価証券

	種類	中間貸借対照表 計上額（千円）	取得原価 （千円）	差額（千円）
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	15,250,611	13,190,791	2,059,819
	小 計	15,250,611	13,190,791	2,059,819
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	10,788,610	11,327,577	△538,966
	小 計	10,788,610	11,327,577	△538,966
合 計		26,039,221	24,518,369	1,520,852

（注）「その他」には、中間貸借対照表の「金銭の信託」（中間貸借対照表計上額10,401,000千円、取得価額10,400,000千円）を含めております。

3. 減損処理を行った有価証券

当中間会計期間において、有価証券について28,130千円（その他有価証券のその他28,130千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、中間期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減

第39期中間会計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）	
期首残高	—
有形固定資産の取得に伴う増加	704,072千円
時の経過による調整額	—
中間期末残高	704,072千円

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第39期中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第39期中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第39期中間会計期間 (2023年9月30日現在)
1株当たり純資産額	418,897.70円
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額（千円）	88,630,795
普通株式に係る中間期末の純資産額（千円）	88,630,795
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数（株）	211,581

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第39期中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	25,548.29円
(算定上の基礎)	
中間純利益金額（千円）	5,405,533
普通株主に帰属しない金額（千円）	—
普通株式に係る中間純利益金額（千円）	5,405,533
普通株式の期中平均株式数（株）	211,581

(注)潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

(重要な後発事象)

共通支配下の取引等

当社は2023年7月31日開催の取締役会において、三菱UFJ不動産投資顧問株式会社(旧商号：MU投資顧問株式会社)と吸収分割契約を締結することを決議し、同日、吸収分割の効力発生日を2023年10月1日とする吸収分割契約を締結いたしました。本吸収分割契約に基づき、当社と三菱UFJ不動産投資顧問株式会社は、2023年10月1日付で吸収分割を実施いたしました。

なお、2023年10月1日付で当社は「三菱UFJアセットマネジメント株式会社」へ商号変更しました。

(1) 取引の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 三菱UFJ不動産投資顧問株式会社

事業の内容 投資顧問業、私募投資信託の設定・運用等

②企業結合日

2023年10月1日

③企業結合の法的形式

当社と兄弟会社である三菱UFJ不動産投資顧問株式会社を吸収分割会社、当社を吸収分割承継会社とする無対価吸収分割

④結合後企業の名称

分割会社：三菱UFJ不動産投資顧問株式会社

承継会社：三菱UFJアセットマネジメント株式会社

⑤企業結合を行う主な理由

法人投資家の運用ニーズが拡大しており、両社で取り組みを強化している法人投資家ビジネスにかかる運用・営業等の関連機能を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に統合することで、リソースやノウハウの集約を通じた運用機能等の強化を図ってまいります。

(2) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準（企業会計基準第21号 2019年1月16日）」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）」に基づき、共通支配下の取引として処理する予定です。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- ①自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- ②運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- ③通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下④⑤において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ④委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ⑤上記③④に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

①定款の変更等

定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

②訴訟事件その他重要事項

委託会社は2023年10月1日にエム・ユー投資顧問株式会社の有価証券運用事業を三菱UFJ国際投信株式会社へ統合し、商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更しました。

上記以外、該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

①名称：三菱UFJ信託銀行株式会社

（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

②資本金の額：324,279百万円（2023年3月末現在）

③事業の内容：銀行業務および信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

①名称	②資本金の額 (2023年3月末現在)	③事業の内容
-----	------------------------	--------

三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279 百万円	銀行業務および信託業務を営んでいます。
auカブコム証券株式会社	7,196 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	54,323 百万円 (2023年9月30日現在)	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
楽天証券株式会社	19,495 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
松井証券株式会社	11,945 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2【関係業務の概要】

- (1) 受託会社：ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理等を行います。
- (2) 販売会社：ファンドの募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱い等を行います。

3【資本関係】

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。（2023年11月末現在）

三菱UFJ信託銀行株式会社は委託会社の株式の100.0%（211,581株）を所有しています。

（注）関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2023年 6月20日	臨時報告書
2023年 8月 7日	有価証券届出書の訂正届出書
2023年 8月 7日	有価証券報告書
2023年 9月20日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

2023年6月9日

三菱UFJ国際投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 青木 裕 晃

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 伊藤 鉄 也

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJ国際投信株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱UFJ国際投信株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2024年1月10日

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型）の2023年5月9日から2023年11月6日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ ３資産分散ファンド（毎月決算型）の2023年11月6日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年12月1日

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

山田 信之

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

田嶋 大士

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJアセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第39期事業年度の中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJアセットマネジメント株式会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。